





心の糧

十二使徒評議員会補助

ヘンリー D. テイラー

理性的判断のない従順は、しばしば、盲従と呼ばれる。しかし、従順は、それが絶対的な、疑いなき信仰に基いている時には、盲従ではない。

信仰と従順によって、驚くべきことが成し遂げられる。予言者ニーファイは、荒野にある時に、大海を渡る船を造ることを主により教えられた。(1ニーファイ 17:17)

ニーファイは兄弟たちの疑いと嘲笑に会いながらも、神の言葉に従った。そして彼は、主の命令を行なう方法が必ず与えられるという信仰と確信を持っていた。謙そんに、しかし威厳のある態度で、彼は兄弟達に宣言した。「もしも神が私にするように命じたもうならば、私はあらゆることをすることができる。もし神が私にこの水よ土になれと言え、と命じたもうならば、水は土になるから、私がおもひよ言えればその通りになる。」(1ニーファイ 17:50)

現在では、主からの靈感によって、数多くの素晴らしいプログラムが、教会に与えられている。これらのプログラムは、教会幹部の保証、承認、祝福を有している。我々はこの大切な助けを与えてくれる、主のお選びになったしもべの語ることをよく聴いているであろうか。また天父から靈感と啓示により、彼らにもたらされる勧告によく従っているであろうか。

も く じ

予言者のことば

ジョセフスミス その知識の源はどこか 大管長 デビド O. マッケイ……	253
聖書の中の母 ……………	スターリング W. シル…… 255
意識性：これぞ神の与えたもう恵み…	マーラ・グリーンウッド. セイン…… 258
新しく完成した絵 ……………	リチャード J. マーシャル…… 261
大いなる母となるために ……………	フローレンス B. ピノック…… 264
ナンバーワンのクリスチャン……………	ジョージ・デュラント…… 265

日曜学校

歳月につれて ……………	リード H. ブラッドフォード…… 266
--------------	-----------------------

若人のページ

母親の役割……………	フローレンス ビットナー…… 269
------------	--------------------

扶助協会

神の園から送られてきた最も美しい花……………	ジョセフ・フィールディング・スミス…… 271
勇気ある強靱な腕……………	ジェイ M. トッド…… 273

M I A

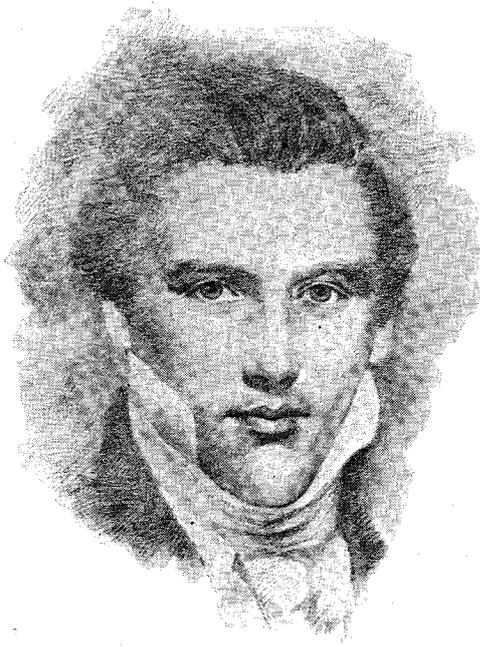
YWMI A—愛に結ばれたその百年…	フローレンス S. ジャコブセン…… 275
伝道部長メッセージ……………	277
ローカルニュース……………	278
お母さんほんとうにありがとう ……………	リチャード L. エバンズ…… 裏表紙

子供のページ

おかあさんりすの「びっくりちゃん」……………	ドロシー・マンサー……65
金になった王女さま……………	ナサニエル・ホーソン……68

今月の表紙

今月の表紙は、アロン神権回復を記念して、ハリ・アンダーソン画伯のモーセが、アロンを按手聖任している油絵です。詳しい説明の記事は P261 に掲載されています。



ジョセフ・スミス

今から149年前、わずか14歳の少年であったジョセフ・スミスは、その真剣な祈りの答えとして、神から啓示を受けたと宣言した。

その宣言は簡単明瞭で絶対的なものであったが、人々はその真理を疑ったのでジョセフは驚いた。彼はただ事実を宣べたにすぎなかった。キリスト教界にとって、それは打撃となり、宗教構造をゆるがし、根底からくつがえす稲妻にも似ていた。

ジョセフ・スミスの最初のメッセージの中に次のような二つの大切な要素が含まれていた。第一は、神は人間に語りかける骨肉の体をもちたもう方であるということであり、第二は全てのキリスト教会の信条の中に、真の救いの計画がないということである。

事実、神の目から見て、その「信条はことごとく悪むべきもの」であり、また「信条を口にする者たち」は「人の誠命を教えとして」教え、「神を敬う様をすれども神の力を否んで」いるものであった。(ジョセフ・スミス 2:19, 2 テモテ 3 参照)

一般の説の否定、聖職者たちに対する挑戦として、金髪の青い眼をした若者のこの大胆な宣言は、ナザレのイエスの時代から後には類のないものである。ウォルムスにおけるルー

その知識

の

源はどこか

大管長 デビッド O. マッケイ

テルの反抗でさえ、これにはおよばない。なぜなら、ルーテルの努力は、はじめはただ教会の腐敗した行ないの数々を浄化しようとするものであり、一方ジョセフ・スミスは当時の教会の信条は神に認められず、ことごとく誤っていると宣べたからである。この宣言の結果、ジョセフ・スミスは宗教界から直ちに排斥されることになった。

彼はその時代の学問や哲学を知らず、芸術や科学を教わることもなく、また教え導いてくれる哲学者や聖職者もなく、全く孤立した存在であった。彼はすぐにその偉大なメッセージを人々にわかりやすく、親切に伝えたが、人々は彼を嘲笑し、非常に軽べつて次のように言った。「……今の時代に示現だの啓示だのというようなことがあるものか、すべてこのようなことは使徒の時代で終わっている。もうこれから決してそのようなことがあるものか」と。(ジョセフ・スミス2:21)

このようにして、14歳のジョセフ・スミスは、人に知られたあらゆる船に対抗して、宗教思想の大海へただ一人で船を出すにまかされた。彼は自ら船を造ったこともなく、その造るのを見たことさえもなかった。もし彼がペテン師であるなら、彼の造った船は、ほんとうにそまつなものであったであろう。

またもし彼の造ったものが、それに先だつ数百年の間に、学者や哲学者が世に与えたものに優ってすぐれたものであったとしたら、人々は驚いて次のように言わざるを得ないであろう、「この人は、そんな知恵をどこで得たのであろうか」と。

すると、孤独のように見えた彼が、シナイ山のモーセやオリブ山のイエスのように類まれな存在であることがわかる。

主や予言者たちがそうであったように、彼の教えは、人間のつくった経路を通してではなく、あらゆる知識の源である神から直接に來たのである。ジョセフは次のように言っている。「私はどつどつした粗い石である。主の御手に導かれてはじめて、私の上にハンマーとノミがふるわれるようになった。私は天の知識と知恵をただ求めるのみである」(教会歴史 P. 423)

ジョセフは神からの導きを受けて、その教えの正しさをはっきりと証明し、恐れることなくそれを宣べたのである。ジョセフ・スミスが教える際には、権威あるものごとく教えた。彼にとってその教えが、人の考えに一致するかしないかまた一般の教会の教えに合うか、あるいは真向から対立するかどうかは問題ではなかった。彼に与えられたものは、賛成、不賛成また調和、不調和に関係なく、教会の信条となり、人

類一般の標準となった。

有益ばかりでなく興味深いことは、今日の進んだ思想が、一世紀以上も前にジョセフが権威をもって教えた事柄にとてもよく調和していることである。ジョセフの生活を導いているスピリットは明らかに初めから正しいものであって神が彼に語りたもうた素晴らしい宣言に一致している。彼は自らこう語っている。「神が望みたもうことは、それがなんであろうと、またその出来事が起こってしばらくたつまで我々にその理由がわからなくとも、すべて正しいのである。」(予言者ジョセフ・スミスの教え, P. 256 英文)

ジョセフ・スミスが神の啓示を求めて、地上にキリスト教会を組織し、権威あるものごとく教え、儀式を執行したとしても、その権能に関してなんの疑いも残さないのである。

この末日の業がまさに始められるに当たり、この神権時代におけるキリスト教会不動の隅の首石が置かれた、すなわちそれはキリストの教会につけるあらゆる事柄において、イエス・キリストの御名によって行なう権能である。

神に関する事柄を行なうには、神から召されなければならないというジョセフの宣言の妥当性や教会の完全な組織、すなわちその管理、律法、人類の必要と進歩にすばらしく適応させる事柄など、ジョセフ・スミスの教えは、救い主と使徒により教えられたことと一致している。このほか、大いなる末日の数々の事柄は、たとえそれが部分的に理解された時でさえも、思慮深い人々に予言者の知恵の源について深く考えさせるのである。

彼が宗教思想に影響をおよぼしたということは、だれにも明らかである。人々が認めても認めなくても、一世紀半前に天から訪れた光は、長い間人々の心を支配してきた暗黒を次第に晴らしているのである。

我々がこの一世紀半を顧みて、少年予言者が宗教界の嵐の中に唯一人で立って、神が語りたもうたことおよび地上に正しいキリスト教会はなかったと宣言しているのを見る時、またジョセフが、自分の公言を果たすために、当時の哲学者によって生みだされたものや最も知恵ある人々に優って、何物かを世に与えなければならなかったことを知る時、あるいはまた彼が自分の知恵と知識にだけ頼って、これを為し遂げるには、いかに無力であったかを理解する時、彼は人類の知恵により示されたものに優る輝かしいものを今日の世に与えたので、確かに末日の選ばれた予言者であったと結論せざるを得ない。



母の日に際して、私達の生命を与えてくださった意味において神様の次に大切な人に敬意を表したいと思います。その人は私達の肉体を作り、さらに精神的、霊的、道徳的な生命を与えてくれました。

「母」という言葉には象徴的かつ比喩的な意味が含まれています。昔、キケロは「感謝は徳の母である」と言いました。心からの感謝とは、神を敬う心、信仰、そして大きな希望を生み出すという意味で一種の母であると思います。人の特性、理想、才能にもそれを生み出す母があることを理解するのは有益なことです。そして時折、物事の結果を調べてみて、それを生み出した力をよく知ることもよいと思います。

神の御子にも母が必要であったという事実は興味深いもの

聖書の中の母

十二使徒評議会補助

スターリング W. シル



です。私達は一年に一度、昔ベツレヘムの夜にマリヤがイエスの天命をこの世にもたらした話を思い起こします。新約聖書には、イエスが旧約聖書から引用した箇所が89あります。イエスは母について何回引用しているのでしょうか？

一般に、聖書は地上における偉大な財産であると思われています。聖書には、私達が永遠の栄光ある生命を得るための道が示されています。予言者の母や、また私達が恩恵を受けている文化の形成を助けたすばらしい女性達によって、聖書の内容は非常に豊かなものとなっています。

聖書の中の母を学ぶには、神御自身の初めを学ぶとよいと思います。私達の生命はすべて天において始まっています。パウロは言いました。「……肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまうとすれば、なおさら、わたしたちはたましいの父に服従して真に生きるべきではないか」（ヘブル 12: 9）

確かに、天においてもいづこにおいても、母なくして、父があろうはずはありません。天も女性なくして天とは言えません。神は賢明にも人のすばらしい不死不滅の霊を宿す肉体をお創りになりました。

それから神はアダムについて言っています。「人がひとりであるのは良くない」（創世 2: 18）そしてアダムの妻となるべく選ばれた偉大な女性のために、女性の体が用意されたのです。女性が男性よりも肉体的に美しく、性質もおだやかで、愛らしく、霊的に創られていることは興味深いことで

す。女性は、人間になる恵みを待っている偉大な霊達の母となるべく備えられたのです。前世において、アダムは天使長ミカエルとして知られており、イヴは偉大な夫となるべきアダムにとってたしかにふさわしい人でたし。2人が人類の先祖となる特権を受けたのは、前世においてすぐれた霊であったからです。

2人の眼が共に開けてから、主はアダムに働くこと、額の汗によって食物を得る必要のあることを説明しました。神の与えたもう記録にも「妻なるイヴもまことに彼と共に働きたり」と書かれてあります。そして、聖霊がアダムに下り、アダムとイヴが神よりたくさんの啓示を受けました。アダムは神を讃めて言いました。「われ罪を犯せし故にわが眼は開けたり。われこの世に生きて悦びを受け、われまた再び肉体に在りて神を見ん。」またその聖なる記録には「イヴ、すべてこれらのことを聞き喜びて言いけるは、もしわれら罪を犯さざりせば、われら子孫を得ざりしならん。また善悪の区別も知らず、われらの贖わる喜びも知らず、すべて従順なる者に神の賜わる永遠の生命も知らざりしならん、と。アダムとイヴとは神の御名を讃め、息子娘らにすべての事を知らしめたり。」(モーセ5:10~12)と記されています。2人とも喜んで子供たちに教えたに違いありません。カインが生まれた時イヴは喜んで「わたしは主によって、ひとりの人を得た」と言っています。(創世4:1)

弟のアベルが生まれてから、およそ900年の間、この地上に人類家族を有効に築きあげることが最初の両親の責任でした。この両親は悪へ進む子供をもつという悲劇を知っていました。しかし、カインが弟を殺し、自分の身におそろしいのろいを受けた時、両親の驚きはいかばかりだったのでしょうか。予言者ダニエルは、「日の老いたる者」または「もっとも老いたる者」と呼ばれるアダムがその民に審判を行うために座る時について言っています。「彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々」(ダニエル7:9~14)その時が来たら、確かに、私たちの忠実なる母、イヴはアダムのかたわらに座していることでしょう。

聖書の中に、いろいろな点においてイヴに似ているもう一人の女性が出て来ます。サラはブアラハムの妻でした。主はサラを「国々の民の母」と呼び、彼女の子孫から、もろもろの民の王たちが出るであろうと言いました。サラとその夫アブラハムは彼らの国の罪深い人々を捨て、神を助けて義しい人々の偉大な新しい国をつくるように選ばれたのです。サラは美しく、その高い資質と偉大な人格は今もなお聖なる歴史のページの中に明るい光をはなっています。彼女は理性があり、忍耐強く魅力的でした。明らかに、アブラハムとの遊牧の天幕生活も楽しそうに見えます。

サラは90歳を過ぎて、長子であるイサクを生みました。サラは自分とアブラハムがいつもエホバに対して抱いていた愛をイサクにも向けようと思いました。サラの死後、イサクはリベカが妻として天幕に入るまで、誰も天幕に人を入れずに母

に対して深い敬愛の情を示したのです。

聖書の中のもう一人の偉大な女性はラケルです。(ラケルには平和な、柔和なという意味があります)ヤコブは14年間の労苦の後に、ラケルを妻とすることが出来ました。しかしラケルもみごもらなかったのです。神の最初の祝福は「生めよ、ふえよ、地に満ちよ。」(創世1:28)でした。そしてこの自然の本性はラケルの心にもしっかりと植えつけられていたのです。絶望のあまり、ラケルは悲痛なさげびをあげて言いました。「わたしに子どもをください。さもないと、わたしは死にます。」(創世30:1)ついに、ラケルはヨセフを生みました。息子ヨセフは待ちに待った甲斐のある子どもでした。しかしこのすばらしい女性の生命も2番目の息子ベニヤミンを産んで若くして終ったのです。

ラケルはすばらしい容ぼうを持ち、言葉使いもやさしく、愛すべき性質を持っていたに違いありません。ヤコブがラケルを永遠に愛したことがわかります。ベツレヘムの道に今もなおラケルの葬られた場所を示す石柱があり私たちの心に歴史上のもっともすばらしい愛の物語の一つを思い起こさせます。

ヨケベデは3人の有名な子どもたち、すなわちモーセ、ミリアム、アロンの母でした。彼女は強い信仰を持ち、機知に富んだ人でした。政府の命令により、生まれたばかりのモーセの命を断たなければならなくなった時、ヨケベデはパピルスで編んだかごを作り、それにアスファルトと樹脂とを塗ってモーセをその中に入れ、川岸の葦の中にかくしました。その時、パロの娘が身を洗おうと川に降りてモーセを見つけました。モーセをじっと見守っていた姉のミリアムは王女のところへ走って行き、モーセの母を乳母として、また将来偉大な人となる息子を教育する者として呼んでまいりましょうかと申し出ました。

聖書に出てくる感動的な女性にルツがいます。ルツは義理の母ナオミによく仕えたので祝福されたのです。ナオミは夫と2人の息子に先立たれました。一人残されて、ナオミは故郷のベツレヘムに戻ることに決めました。しかし、未亡人となった2人の義理の娘には、新しい夫を見つけ、モアブに残るように説得しました。しかし、ルツは義理の母を愛していたので一緒にいたいと望みました。彼女は最善を尽して、年とった女性と若い女性の間で時おりみられる美しい愛情を示してくれているのです。

ルツは義理の母に言いました。「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。」

「あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よどうぞわたしをいくえにも罰してください。」

(ルツ1:16~17)

そしてルツもベツレヘムに戻り、そこでボアズの小麦畑で

落ち穂拾いをしました。それから、ナオミの正しい導きにより、ルツとナオミはすてきなロマンスをくりひろげたのです。後に、ふたりはダビデの曾祖父母となったのです。

聖書の中の気高い女性として、偉大なヘブライ人の予言者サムエルの母ハンナがいます。ハンナの神に対する献身は他に類のないものでした。ハンナは子供が生まれない精神的な苦しきのためにいつも泣いて暮していました。彼女はシロの神殿で祈りをささげ、そこで神が彼女に男の子をささげるならば、その子を一生神にささげるとを誓いました。神がハンナの祈りを聞き届けられたので、ハンナも神との約束を守りました。息子がわずか3歳の時に、勇敢にもハンナは息子を神殿へ連れて行って従順に主の前にささげられました。サムエルはエリの指示のもとで祭司の務めを始め、ついに、神殿の祭司となり、それから主の予言者となりました。サムエルの偉大な特権の一つにイスラエルの主ダビデに油をそそいだことがあげられます。

次にイエスの聖母マリヤの話に移りましょう。この特別な息子の母となるべく神から選ばれたマリヤのような若い女性について考えてみることは非常に興味深いことです。彼女は純粋な心とりっぱな人格を持っていました。彼女の生命は完全に神の御手にあり、今だかつてどの女性にも求められたことのない偉大な任務を与えられていました。習慣により、マリヤは非常に若くして母となりました。しかし主に対してこの上なく謙遜であり、献身的であり、絶対の従順さを持っていました。マリヤはいとこのエリザベツに自分が神の御子の母となるべきことを打明けた時に言っています。

「わたしの魂は主をあがめ

わたしの霊は救い主なる神をたたえます。この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう。

力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。

そのみ名はきよく」 (ルカ 1:46~49)

確かに、マリヤはベツレヘムでその胸に御子キリストをいだいた時、喜びの涙を流して感謝しました。イエスがりっぱな大人に成長するのを見守りながら、やはり喜びの涙を流したに違いありません。しかしそれから、人々の敵意がイエスに向けられ、ついにマリヤは十字架の下で悲しみの時を待たなければならなかったのです。たとえイエスは死んでも、マリヤは女性の中にあって大いなる祝福を受けた人なのです。

私たちは積極的に物事を考えようとするとき、反対の消極的な面から考えてみると、よりはっきりとすることがあります。何年も前に、母の日を広めた物語がリリース・シェルによって「今ひとりの婦人」(The Other Woman)という題名によって書かれました。それは十字架のはりつけの話の一部で、十字架で起こった苦悩と苦痛が描かれています。のどの渴きと、かわいたくちびる、それに酔いぶどう酒について書いてあります。そして、地震と暗やみ、恐怖のあとに最後

の苦痛の叫びがありました。十字架の上から、イエスは愛する弟子の方を向き、それから母に「婦人よ、ごらんなき。これはあなたの子です」と言われ、ヨハネには「ごらんなき。これはあなたの母です」と言われました。

(ヨハネ 19:26~27参照)

すべてが終ると、ヨハネはマリヤとサロメそれにもうひとりの婦人を自分の家に連れて行きました。その夜おそく彼らの泣いているところへ、誰かが扉をたたきました。ヨハネが扉を開けると、見知らぬ婦人が立っていました。

ヨハネが婦人に「どなたを捜しているのですか」と尋ねると、

いまひとりの婦人は「十字架にかかれた方のお母さんです」と言いました。

ヨハネは「彼女は中にいます。でも今は、そっとしておいてあげたいのです」

その婦人は「入れてもらわなければなりません」と言って、ヨハネを押し退け、明るい入口の方へ行きました。その入口の向こうでは、婦人たちが悲しみにくれて座っていました。彼女は目が明りに慣れるまで少しの間立ち止まって、それから、捜していた婦人を認めるとマリヤの方へ歩いて行って「あなたをなぐさめにまいりました」と言いました。

マリヤは「どうもありがとう。あなたがどなたであっても私はあなたに感謝をささげます。」と言いました。

するといまひとりの婦人は言いました。「あなたは幸いなる御方です」

その言葉を聞いておどろいたように、イエスの母マリヤは涙にぬれた目をあげ見知らぬ婦人の顔を、じっと見つめました。彼女はその顔を見ると、自分のつらい悲しきも忘れてしまいました。「まあ姉妹、私こそあなたをおなぐさめしなければなりません。あなたの失われたもの、あなたの悲しきはきっと大きなものに違いありません。どうぞ私に話してくださいませんか？ あなたがどなたか教えてくださいませんか？」

「私の名前はジュディスと申します。ユダのケリオテからまいりました。」とその婦人は答えました。

マリヤは言いました。「さあ、あなたの悲しきを話して下さいませんか？ きっと、お役にたてると思います。よろこんで悲しきを共にしましょう。」

「私の悲しきはあなたには決しておわかりにならないものです。」とジュディスは言いました。彼女は手をそっとひたひたにおいて、灰色の髪の毛を払いのけ、それからどの苦しさをやわらげるかのようにのどの回りに手をやりました。うわずった声でそっと言いました。

「私はイスカリオテのユダの母です。」

私はもう一人の偉大な女性に敬意を表してこの話を終りたいと思います。その人は、私たち自身の母です。神の助けにより、私たちが母にとってかけがいのない者になれるように。



意識性……これぞ神の与えたもう

「私は才能なんかないのよ。これっぽっちの創造性も持ち合せていないわ」

私はこの言葉を他ならない親友の口から聞いたのです。友人のにこやかな、美しい顔を見て、私はひそかに思いました。「あなたはひどい考え違いをしているわ。美はそれ自身神の与えたもうものなのよ。あなたはその恵みをそんなにいただいているでしょうに」

私は、彼女と二人で過ごしたある時のことを思い出しました。かすかなあかりの中で休みなく揺れ動く海に青いもやがかかって、白いカモメが岸にうちよせる波の上を舞っておりました。あらゆる色が空色と乳白色に溶け込み、天は手の届くような近さに感じられました。しばしの沈黙の後で彼女は息を殺して言いました。「何と素晴らしいことでしょう。青と白の完全なシンフォニーだわ。あゝ、これを言葉で表現出来るだけの才能があったらどんなにすてきでしょう。」

また、別れの時、私たちは小さな湖のほとりで、ひざまで雪にうもれて立っていました。突然太陽がさんぜんと輝き真新しく降った雪に照りはえて、ジルコンのような輝きをまき散らしました。光り輝くその風景はさほど大きくもない水たまりに映し出されておりました。彼女は感激して思わず涙をうかべ、それを恥ずかしく思うようすもありませんでした。彼女だけでなく私もそうだったのです。

私たちはともすれば次のように考えがちですが、それは一体どうしたものでしょうか。創造的であるためには、何かしら具体的に創り出さなければならないと。たとえば、詩を書くとか、交響曲を作曲するとか、あるいは絵を描くとかいうふうに。それでは一体、すでに世に出された本を十分な理解と鑑賞力をもって読むたぐさんの人々、あるいは単に目や耳だけではなく心全体で偉大な美術や音楽に接する人々は、創

造性からは無縁だということでしょうか。また、私の友人のように、その鋭い感受性からあふれ出た感動が他の人の感動をも引き起こすとしたら、このような人は創造性とは無縁なのでしょう。この受動的な恵みこそ、能動的な恵み、すなわち俗にいう創造性よりももっとわかりやすくとらえやすいのではないのでしょうか。

創造性ということは才能よりもむしろ態度の問題であると思います。創造性は天才の占有物ではないのです。程度の差はあれ、創造性はあらゆる人間が生来身につけているものです。そしてこの創造性は自分自身よりも偉大なものに対する心の反応に伴って大きくなってゆくのです。このような態度は、雨上りの晴れやかな落日を見る時に強められることでしょう。また、夜、星空をながめ、広大な宇宙の無限さに思いをはせる時に明らかになることでしょう。あるいはまだ体が濡れているような生まれたての赤ん坊を見る時に感じる畏怖の念によって花開くことでしょう。神に対する感謝の念と神との静かな語りこそ心を高めるものです。このような態度、すなわち鋭い意識性が具体的な行動へとかりたてられた時それが創造性となってくるのです。私たちが才能ある人と呼ぶような人たちはこの意識性を本能的に持っているのです。そうでない私たちは、意識性をみがき、どのようにしたら具体的な行動がとれるかを学ばなければならないのです。

東洋の人々は意識性に基をおく芸術をもっております。彼らは自分自身や交わる人たちの間で身近な美や喜びをそれぞれに深く楽しもうと努めております。たとえば、日本人の家屋には月見用の特別な窓が設けてあることがあります。たまたま満月の頃に極東を訪問したとしますと、あなたはきっと「お月見」に招かれることでしょう。その席では言葉をかわさずに、屋根にあふれるばかりの月光をながめたり、銀色に光



恵み

マーラ・グリーンウッド・セイン

る庭をながめたりするのです。その席にあなたを招いた人は素晴らしい美にひたり切るために全注意力をあつめることが必要だと思うことでしょう。

日本では初雪も月見同様のよい機会です。ある婦人は自宅の庭に初雪の景観を楽しむために小さな休憩所をもうけております。彼女と客人たちは、白い世界へと刻々移り変っていく景観を静かに座ってながめているのです。私たちが受動的な才能と称した状態で、人々が初雪を楽しんでいる間に、自分の感動を何かの形で表現出来る人たちは絵の具やイーゼルやペンをとりだして自分の印象をとどめておきます。

感受する才能も、より創造的な才能と同じように幼少の頃からはぐまれてこなければなりません。赤ん坊の世界は新鮮で、新しく、おどろきと興奮で満ちております。赤ん坊はこの地上に「まだ天の栄光に染まったままで」やって来るのです。もし幼年時代のおどろきを大切に育てたり、大人が常に再発見してあげなければ、子供の持つ生来の直感力は曇って大人になる以前に失われてしまうことでしょう。

私がまだほんの子供だった時の忘れることのできない夜のお話をしたいと思います。私は突然起こされ外へ連れ出されました。パジャマ姿のまま、げげんに思って空を見あげると空はまるで燃えたつようでした。

「オーロラよ」母が言いました。「北国の光なのよ」

私はこれからもきっと、この時にきざまれた印象を忘れることがないでしょう。北方の地平線は燃え立っておりました。バラ色の弧をえがいて、ピンクと黄色の帯がリボンのように空をつつんでおりました。そしてそのリボンは時折、風にゆれる優美なひだのように動いておりました。輝きがさざなみのように変化し、ちょうど炎の舌のようでした。この雄大な現象は、北アメリカではまれにしか見る事が出来ませ

ん。私は後になって思いました。きっと賢明な両親はあのような素晴らしい眺めにくらべたら、子供の眠りを中断するのは大したことはない判断したのでしょう。あの感動的な夜以来、輝く落日、ピンク色の雲、そして薄いすき透るようなピンク色のスカーフさえも私を郷愁にさそうのです。

あの夜の感激は子供にもわけ与えられました。あの日のこと、私はまだ小さい息子の手をとり日没時のバラ色に色どられた山を指さして言いました。「神様はどんな芸術家より、もっともっと偉大だわ。ねえ坊や。神様は私たちの世界をこんなに美しくして下さっているのよ」

息子は数日後私を感動させました。遊んでいる時に興奮して私を呼びました。「ママ、ママ、天のお父様は山を全部ピンク色に塗ってしまったよ。きっと世界中で一番大きい絵筆をもっているんだね」私の子供は気づき始めたようです。

「自分の子供に一体どうやったら自然について教えられるのでしょうか。私は自然について何も知らないと同然だわ。木の見分けがつかないし、小鳥も見分けがつかないし、星や月にいたっては何が何だか皆目見当つかないわ。私が知りもしないことを教えるなんて出来ないことです」とある母親が言いました。

感じるということは、知るということよりも大切なことです。かりに月見の席にいる人たちの中に宇宙に関する科学的知識を持ち合せている人がいたとしても、それでも各人は宇宙空間の不思議と畏怖の念にうたれることでしょう。子供のころ私はオーロラの素晴らしさに触れました。そしてその時私は、あれは私の遠い遠い祖先が住んでいた北方の国の真夜中の太陽なのだよと教えられました。説明はそれで充分でした。私は何ら科学的な根拠もなしに、つまりオーロラは太陽から放出される荷電粒子、すなわち電子が地球の磁場を飛

来する時に反射されて発生するのだということを知らないまま、オーロラを見て創造の不思議さを感じたのです。この科学的な知識はオーロラを見た夜に目覚めた好奇心によってずっと後になってから得たものです。今私の心の中の創造性は、それについて何かをなさないと、私をうながしています。盲目のヘレン・ケラー女史が著書「三つの感覚を通して」の中で次のように述べています。「私は両親と教師に強く訴えたい。小さい時から五感を正しく使うよう子供たちを訓練するようにと。文化を更新していくための何よりも確実な希望は常に子供たちに存している。子供たちが高等教育を得るために、視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚を通じて、喜びを見出し関心と呼びますように根気強く励まさないでほしい。教育のいろいろな形態に見られるように、子供の感覚はその個性に適合するような方法でみがかれるべきである。

……私は次にあげるようなことが赤ん坊に良い効果を与えるということに気づいた。つまり美しい色、または美しいカーブを描いている貝殻をよく見せること。うっとりさせせるように音楽を聴かせること。母親や父親といった赤ん坊が好きな人に触れさせること。臭いをかいでニコリするような花の香りをかがせること。赤ん坊の健康維持に気をつかうと同じように、母親が赤ん坊の感覚の育成にも気を配れば、彼女の努力は教え切れないほどの報いを受けるであろう。子供の五感は忠実な妖精のように、いつくしんで大切にすればそれにこたえて限りない忠誠をちかい、美しい夢の虹の端の輝きを与えてくれる。その子供はいつも空と地上と海に心を引かれ、心をなごまされるであろう。感覚をより豊かにするだけでなく、こうすることによって霊的に成熟する好機に恵まれるのである。というのは、肉体の状態と霊的状态には深い関係があることを私は確信しているからである。内面的な世界への入口となる五感や、あるいはその内のどれかがあれば、個々人は克己と共に完全な喜びを受ける能力を得る」

小さいけれども素晴らしいものがしばしば見過ごしにされているようです。今まで虫めがねで砂粒をごらんになったことがありますでしょうか。それはバラの花のような形をしており、まるで結晶質の宝石のようです。顕微鏡で雪片を見たことのない子供は、素的な経験をふいにしていることとなります。砂漠でひろった砂の宝石は私を不思議な思いでいっぱいにしました。その形は花のように入りこんでいて、まるで人の手で細工したように完ぺきな彫刻です。小さな蟻のさまざまな活動は創造の奇蹟です。あらゆる花、単純な形をした葉、あるいは虫めがねでのぞかれる小さな生物は予想も出来ないような美と複雑さを私たちに見せてくれます。

視覚だけでなく、他の感覚も、もっともっとたくさんの喜びを私たちにもたらします。春のにわか雨の後の湿った土の芳香、温かいパンのにおい、ジャムを作っている台所からのおってくる香料のかおり、潮が満ち干す時の磯の香、花畑からただよってくるまざり合った花の甘いにおい。

聴覚はちょっとした注意力を必要とします。春の朝、人や車の行き来の音や、人々が仕事をはじめ音のしない前、そう、夜明け前に子供を起こしてごらんください。そして子供と一緒に聞き耳をたててごらんください。きっと今まで耳にしたこともないいろいろな音に気がつくことでしょう。たぶん鳥

たちの夜明けのコーラスです。こま鳥、つみ、それにすずめといった鳥でしょう。幸運な人はよたかのウィッポーウィルが夜中から夜明けまで歌い続けているのを聴くことができるかもしれません。風が非常にさわがしい夕方など、往來のざわめきは風にまぎれてしまい意外と静かな場所が見つかるものです。耳をすましてごらんください。渡り鳥が他の鳥に呼びかけている鳴声を、すぐに聴き分けることが出来るでしょう。

いつも子供の関心を良い音楽に向けるようにして下さい。いつも良い音楽が家庭にあるようにして下さい。子供と一緒に腰をおちつけて音楽を聴けるような時間をおとりください。いろいろな音やリズムを聴いて一体どんな事が心に思い浮かぶか子供に尋ねて、子供の想像力を刺激して下さい。子供たちは感覚と感情でもって音楽を理解していくのです。あなたご自身の考え方で子供に棒をはめないようにして下さい。子供を音楽の世界で自由に放っておいて下さい。良いレコードを用意して、レコード・プレーヤーを自分であつかえるようになりだすと、子供に好きなようにさせて下さい。このような事はあなたの方がお考えになっているよりもずっと早い時期にできるようになるものです。子供が好きな時、好きなレコードを聴けるようにしておいた方が良いと思います。ある曲に精通すると、きっとその曲の作曲者について知りたがるでしょう。また、音楽の表現についても興味をもつようになるでしょう。子供と一緒に、たとえ調子はずれでも一緒にお歌い下さい。喜んで、また、気楽に歌って下さい。子供と一緒に踊って下さい。音楽を体を動かして表現したり、演じたりするように励まして下さい。

身近かにある、驚嘆すべき事に気づいたり、それを探究することは楽しい娯楽以上のものを私たちに与えてくれます。人生の浮沈みや悩みに無関係に、強い意識性を持つことは内面的な平和と満足感をもたらしてくれます。意識性が強くなければならないことに気づいた人は、終生持続する力をたくわえたことになるのです。その人は知的にも肉体的にも、いやしと断えざる更新の力をたくわえているのです。神に対する信仰は、神がお造りになったものの驚異に思いをめぐらす間持続されます。鋭い意識性によってそれを表現するために何らかの才能を結ぶかもしれませんが、それは他の人を助けることになり、ひいては人類に祝福をもたらすこととなります。

感受の才能は私たちみんなが等しく得ることができます。と言いますのは自然は永遠に私たちの働きかけに応じてくれるからです。都市に住んでいようが田舎に住んでいようが、私たちは等しく同じ青空を分かち合い、ほとんどの人は、夜明け、たそがれ、日中の太陽の輝き、夜の星明りを見ることのできる目を持っているのです。風は森で歌っています。しかし私たちはそのこだまを家のひさしで聴くことができます。都市であっても、田舎であっても、雨を見ながら、雲から海までの雨の旅路に思いをはせることもできます。鳥は秋になれば渡って行ってしまいますが、また歌いながら帰ってきます。その歌は聴く耳を持つ人にはおしみなく与えられるのです。季節はいつも約束を守り、私たちはそれを讃える歌や子守歌を歌うこともできます。私たちに必要なのは時間をとること、心を開いてものに感じるための時間をとることなのです。

新しく完成した絵

リチャード J. マーシャル



聖典に記された出来事を描いた数々の絵が教会のあらゆる展示や教材に使用されていますが、このたび新しい絵が完成されました。米国のハリー・アンダーソン画伯の手になるこの絵は、聖書に記された大切な出来事のありさまをよく物語っています。この絵は、神の命によりモーセがアロンの頭に手を置いてそれ以後アロンの名前がつけられた小神権またはレビ神権の鍵を授けている場面です。この絵を通してアンダーソン画伯は、この神聖な出来事に対する自分の考えを表現しています。

聖書をたんねんに調べたことが、この絵によくあらわれています。そこには40年間荒野をさまよって歩いていた時、強烈な太陽が照り輝く日に、幕屋の中庭にいるレビ人の兄と弟。主の命を受けてモーセが建てた幕屋にかこまれている中庭は、「……長さ100キュビトの亜麻の撚糸のあげばりを設け、その一方に当てなければならない」(出エジプト 27:9)と記されているように外界から護られています。中庭のまわりに肩を並べて立っているレビ族の男が見え、その何人かは、光る金属製の笛を持っています。

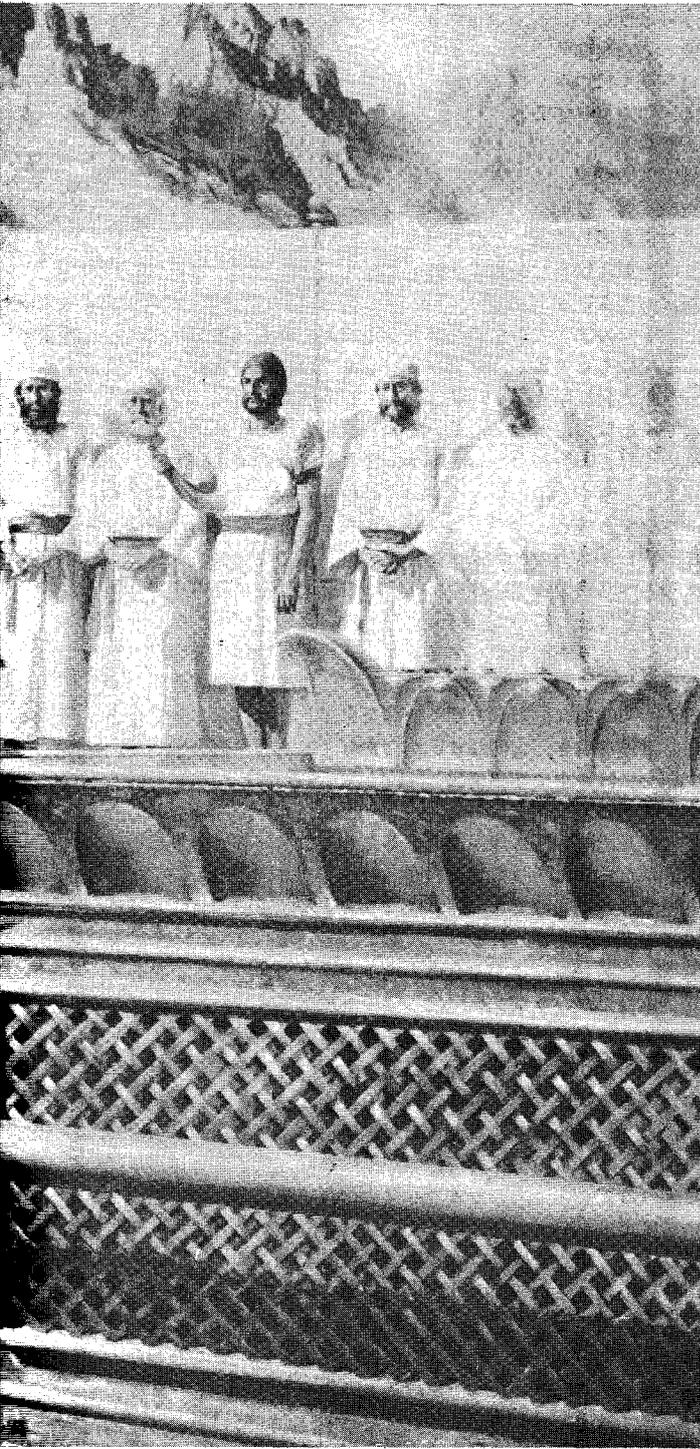
モーセは、「……あなたの兄弟アロンとその子たち……とをあなたのもとにこさせ、祭司としてわた



しに仕えさせ」(出エジプト28:1)るよう主から命じられました。アロンの4人の息子のうち2人は、幕屋の入口に立って、兄に祝福と、権能を与えているモーセを見えています。

アロンの衣服についてもよく考えられているようです。事実、アンダーソン画伯は出エジプト記の聖句から苦心して描きました。というのは主はアロンが着るべき衣服を聖書で述べておられるからです。

それは、「彼の栄と麗しさをもたせ……祭司としてわたしに仕えさせなければならない」(出エジプト28:2~3)というものです。この啓示では、衣服の各部分について特に強調されました。金糸・青糸・紫糸・緋糸で織り、宝石を4列に並べ、各宝石には、十二支族の一族の名前を刻みつけて胸当を作れというものでした。その他に2つの宝石があり、それぞれ、エポデまたは外衣の肩につけ、この宝石に



なウリムとトミムがあり、それはアロンが「イスラエルの子どもたちのさばきを、その胸におく」ためのものです。

他に、衣、帯、「主に聖なる者」(出エジプト 28: 36) と刻んだ帽子または式帽や、色彩豊かな衣のすそにつける金の鈴やざくろについても詳細に描かれています。

これらの神聖な衣の大部分は、古代ユダヤ人の風俗習慣についての品が保存されているニューヨーク市のヘガライ博物館での調査によるものです。

幕屋の祭壇と扉の間の黄銅の上にあるよくみがかれた青銅の洗盤は太陽にきらきら輝いています。祭司たち、アロン、息子たち、その他レビ族の人たちは、祭壇で務めをする前または、幕屋の聖所に入る前に洗盤で手足を洗うのです。ユダヤ人の伝説学者によると、この儀式は、幕屋で神の務めをなすために必要な神聖さを象徴しているとのことでした。

モーセが洗盤を作ろうとした時、イスラエルの女は自分が使っていた黄銅や青銅の鏡をこの神聖な器を作るために捧げました。アロンの衣と同様に、洗盤のデザインも聖書とヘブライ博物館を参考にしました。下で足を洗い、洗盤では手を洗います。

幕屋には、祭壇が二つあります。それは幕屋の内側の幕の前にある香をたく祭壇と、外庭にある燔祭用の青銅製の祭壇です。青銅をかぶせたアカシヤ材でできた青銅の祭壇は聖書にはっきりいわれているように環と横木がついています。ユダヤでは、この外庭の祭壇が大切であることが伝説として語り伝えられてきました。この祭壇は神聖な幕屋の入口にあり、「犠牲によらずして、エホバに近づくことあたわず」という主の誠命をはっきり教えています。洗盤や燔祭の祭壇などの大きな金属品と厄介な幕屋外の壁は、組み立て、とりこわして、毎日毎日荒野を運びました。そしてそれらは、モーセの確固たる権能のもとにイスラエル人の信仰と秩序を芽ばえさせるものでした。

この絵が若人の指針となり、イスラエル人の彷徨の意味を知っている者への力となり、神の神権と神の王国を求めて見る人々の心を開く鍵になればと願っています。

もイスラエルの6人の子供の名前を刻むのです。そしてこの2つの宝石は、2本の純金の鎖で胸当につながっています。主はすべてこれらの石の種類や各部分の長さ、ひろさを指示されて「巧みな術」で作らせようとなさいました。つまり、「第二列は、エメラルド、サファイア、ダイヤモンド。第三列は黄水晶、めのう、アメジスト」(出エジプト28:15, 18~19参照) 他の人には見えませんが、胸当には神聖

大いなる母となるために

フローレンス B. ピノック

「ぼくのお母さんの作ったクッキーは世界中で一番おいしいよ」と一人の少年が自慢しました。「ぼくのお母さんだってアイスクャンディや一日中なめていられる様な棒あめが作れるよ」と四歳になる子供が大声でいきました。それに負けじともう一人の少年が叫びました。「ぼくのお母さんは何でも出来るよ。とても怒っている時でも、やさしく笑う事が出来るんだ。」 そうなのです。母親とは、子供達の目にはとても大きなものとして映り、当然の事ながら子供達は母親に最も大きな信頼をおいているのです。

母親とは

お休みのキス

朝の心地よい輝き

陽気な「いってらっしゃい」



うっとうしい日にかかった虹
優しくたしなめて横にふる頭
背を軽く打つ手
そばでお祈りする膝
正直な答え
誠実な活動家
一杯になっているクッキー入れ
より良き明日を開くとびら
その他数え切れない程の事柄——まさに

母親は偉大な存在です。

1メートルの高さにもならない子供が母親の顔を見るためには、からだを後にそらせるか、見上げるかしなければなりません。十代の子供達は大抵母親と同じ背丈になっていますが、もっと背丈が伸びたとしてもなお、自分より低い母親を、見上げる様な気持ちでいます。従って母親の役割とはなかなか大変なものなのです。

母親になって初めてわが子を抱いた時から、彼女は子供の愛と尊敬にあたいする者となるのです。彼女は来る日も来る日も、毎年毎年、休まずしかも完全に責任を持って保護し愛さなければなりません。またいつも自分の子供達の中に望みを見出しているのです。母親というものは決してあきらめるといふ事が出来ません。だからこそ、おいしいクッキーやアイスクャンディーや砂糖菓子を作り、物事が順調に行っていない時にもほほえんで子供達から尊敬され、一日一日の中に幸福な、陽気で明るい面を見出し、ガミガミ小言を言わずに子供達を導き、大切なことができなくても子供達を励まし、決して涙をこぼさずに元気を出し、泣き言をいわずに問題に対処することもできるのです。

その他にも母親が大きな存在であるためにしなければならない毎日の事柄がたくさんあります。家庭というものは両親のものであるとともに子供達のものでもなければなりません。家庭のとびらは広く子供達の友人を迎え入れるために開かれているべきです。そして「もちろん、ダンスの後でお友達を連れていらっしゃい。バターワッフルとあたたかいココアを用意してあげますよ」という母親の声が聞こえていなければなりません。母親にとって娘や息子に「教会の帰りにお友達を連れていらっしゃい。一緒にアイスクリームをいただきますよ」といふ事は簡単です。

このような、母親のたゆまぬ努力が、子供達の尊敬と愛とをかちとるのです。これらの積極的な習慣が出来ればどの子も毎日喜びに満たされるでしょう。いうまでもなく母親は洗濯や料理で忙がしいものですが、このような時にこそ母性愛への報酬として大きな配当を受けるのです。子供達は母親の中に強さを感じるに違いありません。そして、傾いた壁のような母親ではなく、彼らの背骨をしゃんと強めてくれる母親を必要としているのです。

大いなる母親が持たねばならない要素の中で愛こそ最も重要なものです。この愛は優しく包んであげるようなものであると同時にしっかりした、確固たるものでなければなりません。母の愛には時には子供を叱責するだけの力と公明正大さがなければなりません。

母の愛は孤独をいやし、勇敢であれと励ますものでなければなりません。このような愛が自分の娘を素晴らしい女性に、そして息子を立派な男性に成長させるのです。本当に母親の愛とは全てを含んでいるのです。我々の長兄であるイエス・キリストは御自分の教えをのべ伝えさせるために三年間で十二人の弟子を養成なさいました。母親には自分の子供を教育するのに19年か、それ以上の年月があります。イエス様は弟子達を愛し正しい行いをさせました。イエス様と同じ様に母親も自分の子供達を愛すべきです。母というものは愛をもって耳を傾け、愛をもって話したいものです。

これができればその母親は本当に子供達の目に大きな存在となりそしてまた世界にとっても偉大な存在となるのです。

『ナンバーワン』

の

クリスチャン

ジョージ・デュラント

第二次世界大戦は間接的な方法で南朝鮮にキリスト教精神を導入するとびらを開きました。朝鮮動乱の後、私は連合軍の一員として駐留していました。

韓国に到着して間もなく、私はキリストとその教えについて関心を持っている人々がいるということに気がつきましたが、同時に、本で読み、話に聞いていたキリスト教の徳と、おそらくはキリスト教徒であろうと思われる兵隊たちの実際の行動とが、あまりにかけはなれているために韓国人は当惑しているということも知りました。

韓国の市民は私たちが面倒がっている仕事、たとえば台所仕事のような雑用をするために毎日キャンプにきました。

その働きに応じて賃金を支払うというこの協定は彼らにとっても都合のよいものでした。彼らがキャンプにくる時には、我々もそうですが、雑草と木の間にできた小路を通ります。その路上で、兵隊と韓国人が合った場合、韓国人は、わきの雑草の中にとび込んで兵隊が通りすぎるのを待ちます。こういう状態を見て、私はこのようなことがあるべきではないと考えました。

ここは彼らの国なのです。我々は、だれであっても道をゆずるべきなのです。ですから私は自分がわきにどいて韓国人をまず通してあげるということを実行しました。彼らは驚いたようですが、同時に喜こんでいるようでした。間もなく私は彼らの名前をたくさん覚えて、彼らが道を通りすぎるとき名を呼んで挨拶しました。

何カ月かたって、私は兵隊たちが韓国人と話し合うために考え出したといういくつかの方法を知りました。

その中の一つに、ちよつと変つたやり方があつて、物事のよしあしを表現するのに、とてもよい時には「ナンバーワン(一番)」、とても悪い時には「ナンバーテン(十番)」という呼び方です。たとえば、我々が韓国人を立派なジープにのせたとしたら、「これはナンバーワンのジープだ」ということになり、もし「これがガタガタのジープだったとしたら「これはナンバーテンのジープだ」ということになるわけです。

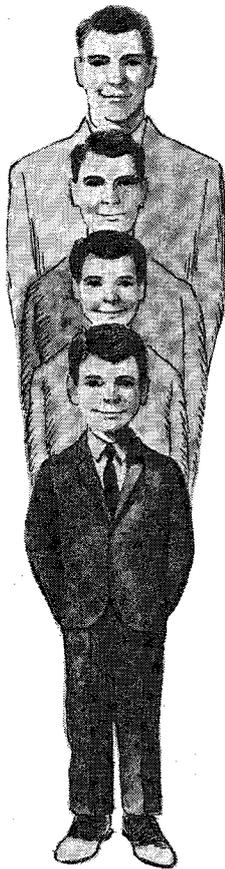
我々のキャンプでは、伍長以上の階級の者は食堂に行ってテーブルにつくと韓国人労働者が食事を運んでくるというきまりになっていました。それ以下の階級の者は皆ならんで、自分の食事を運ばねばならないのです。ある日私が食堂に行った時、行列が長かったので、すでに食事をしていた五人の友人のテーブルに行って行列がもっと短くなるのを待っていました。そのテーブルで彼らと話している時、だれかが私の肘にさわるのを感じて目を上げると、私の横に一人の韓国人労働者が食事のお盆を持って立っていました。

彼がそのお盆を私の前に置こうとするので、私は自分の肩についている階級章を指さして「そんなことをしてはいけないよ、私はただの兵隊なのだから。」と言いました。

彼は涙ぐんだ目で私を見おろして静かに言いました。「私がやります。貴方はナンバーワンのクリスチャンだから。」

私は彼がなぜこう判断したのか知っています。私がしたほんの小さなことのためなのです。こうした小さな事柄が一番のクリスチャンを作り上げ、そしてこの小さなことが集まって生活と呼ばれる大きなものを作り上げるのです。

日曜学校



歳 月 に
つ れ て

リード H. ブラッドフォード

多くの場合、私たちは他人の行動に完全さを求めるようである。他人の行動が自分の思い通りでないと、しばしばいらだちを感じるのである。いらだちだけでなく、抑えようのない怒りになることもある。例えば、ある親は、自分の子供に肉体的、心理的な苦痛を課す。多くの場合、この親は子供のためになるとは考えていない。まだ十分に成長していない子供のもどかしさや不満から自分が逃れようとしているのである。

もし親が子供の立場を良く考えてみれば、心身ともに成長するには時間がかかることに気がつくであろう。人は20ないし25歳になつてようやく肉体的には成熟する。まさか、5歳の子供に、「さあ、大人になっておくれ」とはいえないし、さりとて、突然大人にすることもできない。知的、感情的、社会的、霊的な成熟も同様である。それぞれ成熟に達するには、進歩の道をたどらなければならないのである。めざましい成長をとげた例として、以下の話を考えてみよう。

1. 醜いあひるの子

ハンス・クリスチャン・アンデルセンは卵をかえしているあひるの物語を書いています。何日かたって、一つ以外は次から次へと卵がかえりました。そのたった一つ残った卵はなかなかかえりませんでした。ついに、その大きな卵が割れて「とても大きくて醜い」ひながころげ出てきたのでした。

『何てみっともないんだ。もう、がまんできない』そして一羽のあひるが飛びかかり、醜いひなの首にかみつきました…かわいそうなあひるの子…」めんどりたちにも突っかれ、押され、いじめられました。

「これが生まれた最初の日のできごとで、それから、事態はますます悪くなりました。かわいそうなあひるの子はみんなに追い回され、兄や姉たちでさえ『あーあ、猫がバカでかいお前をつかまえたらなあ』と言いました。母親もどこかへ行ってくれたらと思っていました。あひるたちは、かみつ、めんどりはつつき、家畜にえさをやる女中は足でけつとばしました」

その後、醜いあひるの子は逃げ出し、生垣を飛び

イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。(ルカ 2:52)

されば、彼は始めに完きを受けずして絶えず恩恵に恩恵を加えられ、ついに完きを受けしなり。(教義と聖約 39:13)

越えました。するとやぶにいた小鳥たちが驚いて、空へ飛んで行きました。「『きっと僕が醜いからだ』と考えて、目をつぶりました——そして、やっと逃げ出しました。どンドン歩いて行くと、野がもが住んでいる大きな沼に出ました。そして、すっかり疲れ切って、打ちしおれ、その夜は沼の近くで寝ました」

野がもも醜いあひるを快く思いませんでした。犬も醜いあひるを見て、逃げて行きます。それに驚いためんどりはこんなふうに言うのでした。「本当にまぬけなあひるね」

醜いあひるの子はとうとうひとりぼっちで広い世界に行こうと決心しました。そのあひるはとてもつらい思いをしました。やがて、寒い冬がやって来ました。暗い冬もすぎてついに春がやって来ました。

ある日、たまらなくなつて飛びあがろうとしました。すると飛べるではありませんか。「気がついた時には、大きな庭の上に来ていました。ここは春の息吹きが感じられて、とてもさわやかでした。そして、茂みのところに、3羽の美しい白鳥がやって来ました……醜いあひるはその堂々とした白鳥を見たときに、なんともいえない悲しい気持になりました『あの立派な鳥のところへ飛んで行こう』殺されるかも知れないと思いましたが、『あひるにかみつかれたり、めんどりにつつかれたり、家畜の世話をする女中にけられたり、寒い冬にこごえるよりも、あの鳥に殺された方がいいや』とひとり言を言つて、白鳥の方へ寄つて行きました。すると白鳥はあひるを見つけるとこつちへくるではありませんか。あひるはこわくてふるえました。そして首を水面へうなだれました。

「けれども、あひるがきれいな川の中に見たものは何だったでしょうか。それは自分の姿が写っていました。でももうあの醜い、あいきょうのない、ぶかっような灰色のあひるではなかったのです。——きれいな白鳥でした……白鳥になったあひるは、つらい苦しいことにたえたことを喜びと感ずるようになりました。訪れた幸福がしみじみとわかったので。そして、羽の大きな白鳥が新しい仲間のまわりをぐるぐると泳ぎまわり、口ばしでやさしくなでました」

2. アルマの靈的成熟

「ところがモーサヤの息子たちは無信者の仲間に入っていた。またアルマの息子の一人もそうであった。この息子は父の名をとってアルマと呼ばれたがかれは非常に罪深い男で邪神を信じ、言葉が多くてよく人にへつらい、多くの者をまどわして自分のしているような邪悪を犯させた。

この男は人の心をいざなつて民の間にいざこざを起し、神の仇に民の心を司どらせたから神の教会が盛になることを非常にさまたげた」

(モーサヤ 27:8, 9)

しかし、アルマの生活は変つた。一人の天使が現れて、次のように言つたのである。「汝がたとえ自分で亡びようと思つても、この後再び神の教会を亡ぼそうとしてはならぬ」 (アルマ 36:9)

この天使の現れにより、アルマは心の目が開けたそれを次のように書いている。

「……それから私は自分が犯した一切の罪のために非常に良心のとがめを受け、永遠の責苦を感じた。私は本当に自分のあらゆる罪と悪事とを思い起してそのために地獄の苦痛を感じ、また神に逆らつてその聖い命令を守らなかつたことを認めるようになった……。その時私は、自分の神の前に立つて自分の行為によって裁判を受けないように、靈も肉体も一しよにみな消えてなくなつてしまえばよいと思つた。」 (アルマ 36:12, 13, 15)

しかしアルマは主の前に個人的な誓約を立て、自分の行ないを変えた。

「ああ、この時私の感じた喜びと、私が見た驚くべき光とはいかにも大きかった。まことに、私はこの時前に感じた苦痛にひとしいほどの喜びに満ちたのである……まことにその時から今になるまで私は人々を悔い改めさせ、私と同じ喜びを感じさせるために、またこれらの人も神によって生れ聖靈に満されるようにたえずはげんで働いた……さて、見よ、主は私の働きから生じた結果によって私を非常に喜ばせたもう」 (アルマ 36:20, 24, 25)

3. ビル・サンズの改心

政府では名の知れたアルコール中毒の父親と、社

交界で名を売ったサディストの母親の間に生まれたビル・サンズの少年時代は非常に不幸なものであった。10代のころ、排他的で、反抗的であった彼は悪事に走り、サンクエンティン刑務所に投獄された。そこで、彼の人生を変えた二人の男に会ったのである。一人は刑事犯人を更生させることで有名なクリントン T. ダフィー刑務所長、もう一人は刑務所仲間のカーライル・チェスマンであった。

今日、サンズは犯罪の防止と未遂犯および前科者の更生に尽力することで有名な運動家となったのである。彼の経歴は、人の心に感動を与える自叙伝の一つとなっている

大きな画像

私たちは他人との関係における「大きな画像」を心の中に描き続けていなければならない。その画像の中に他の人が神から与えられた潜在能力を見ることができにちがいない。心の中にこの「大きな画像」を描いていると、他人との関係に意味をもたせまた役立たせることができる。では、そのような関係を築くにはどうしたらよいであろうか。以下にそ

の手段となる考えをあげる。

1 感情移入。感情移入とは、相手の観点あるいは境遇から状況を理解しようとすることである。私の一番下の息子は7歳で名をランディというのだが。私はよく自分にこう問いかけてみるのである「リード、お前が7歳だった時、世の中はどんなふうに見えた？」こう考えると、ランディをもっと理解できるのである。

2 感情限界線を避ける。私たちがいる関係で「感情限界線」を越えると、言い換えれば、不当に他人の感情を害すると、その人を理解したり、助けたりしにくくなる。一方、たえずこまやかな関心を示して、その人との関係を強めようとするれば、両者にとって実り多いた意義ある成長を促すことができるのである。

3 忍耐する。これは何もせずに成長するのを待っていることではない。人生における主が存在したもうことの重要性、「生まれかわる」力、知的、情緒的、社会的、霊的成長の喜びという神聖な原則の意味を理解させる創造的な忍耐をすることが必要なのである。

今月の前奏曲

Simplice Darwin K. Wolford

5月の聖句

大人日曜学校

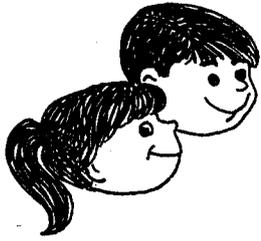
私は道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

(ヨハネ 14: 6)

子供日曜学校

神は自分のかたちに人を創造された。

(創世 1: 27)



せいとみち 聖徒の道

1969年5月号



こどものため

おかあさんりす

の

「びっくりちゃん」

ドロシー・マンサー作





子りすのくりちゃんが、みどりのまきばの中にあるじぶんのお家のそばにいます。くりちゃんは、ゆうごはんのたべものをさがしに、いそいで出かけて行ったおかあさんりすのかえりをまっていたのです。

とつぜん、くりちゃんのしっぽがこうふんしてピクピクとうごきました。「おかあさんがお家にかえ

って来た時に、お母さんをびっくりさせるものがあったら、どんなにおもしろいだろうな」とくりちゃんはひとりごとをいいました。

「そうだ、さがしてこよう！」

くりちゃんは森の方へ、走って行きました。そこで、くりちゃんは友だちのはい色のうさぎにあいま

した。「うさぎくん、どこへ行ったらおかあさんをびっくりさせるものが見つかるか、きみしってる？」とききました。はい色のうさぎはふわふわしたしっぽをふりうごかして「うーん、でも、びっくりするものってなんだい？ 赤いものかい？ きいろいものかい？ それとも白いのかな、雪みたいにさ。わからないや、くりちゃん、ぼくしらないよ」と言ってピョンピョンとんで行ってしまいました。

くりちゃんは地めんをとびまわっているこおろぎをみつけて、とびのきました。それから、木のえだにとまっている黒いからすをみつけましたが、そのからすはこおろぎにとびかかろうと思っているらしく、じっとこおろぎを見えています。子りすのくりちゃんはさげびました。

「とまれ、こおろぎくんうごくな、からすだよ！／」ところで、どこに行ったらおかあさんをびっくりさせるものが見つかるかしらないかい？」

こおろぎとからすはいいました。「しらないよ」それからくりちゃんはまた森の中をすすんで行きました。しばらくして、急なながれがうずをまいている小川に出ました。そこで、友だちのあらいぐまのプーさんが、おひるにたべるおさかなをあらっていました。「プーさん、どこにおかあさんがびっくりするものがあるか、きみしらない？」とききました。

「びっくりするものって、どんなものかよくわからないけど……、ぞうのように大きいものかい？ それともねずみのように小さいものかい？ 山みたいに高いもの？ それとも、うんとひくいものなの？」とプーさんは言いました。

「どうして——なぜぼくにわかるんだよ！／」と子りすのくりちゃんはいいました。そして、またいそいで森の中を歩きました。

お日さまのかがやいているあいだずっと、くりちゃんは森の中へどんどん入って行きました。くりちゃんは、とちゅうであったどうぶつたちみんなに、おかあさんをびっくりさせるものをどこで見つけることができるかたずねました。

じまいには、くりちゃんはこんなひとりごとを言いました。「ぼくは、こおろぎにもきいたし、からす

にもきいたんだ。ほかのたくさんのお友だちにもきいたんだ。でも、みんなしらないっていったんだ」

いまはもうくりちゃはつかれたので、木の下によこになってやすみました。まもなく、くりちゃんはねむってしまいました。

目がさめたとき、お日さまは木のむこうにしずみかけていました。「もうくらくらするんだな、お家へかえったほうがよさそうだ」とくりちゃんは、またひとりごとをいいました。くりちゃんはよろよろとおきて、右の方へ行ってみました。それから左の方へ走りました。右も左もしらない道でした。「どうしたんだらう——家へかえる道がわからないや。まいごになっちゃったんだ、ぼく！／」

そのとき、くりちゃんは木の間でピカピカ光っている小さな光を見つけました。「ほたるくん！／」とくりちゃんがよびました。「ほたるくん、森を出てまきばへ行く道をしってるかい？」

「もちろんさ、ついておいだよ！／」とほたるがようきにいいました。

そこで、子りすのくりちゃんは森を出て、まきばにつくまでずっとほたるのあとについて来ました。ここでほたるとさようならをしてくりちゃんはお家へといそぎました。

家ではおかあさんりすがくりちゃんをまっています。「まあ、やっとかえってきたのね。くりちゃん、いったいどこへ行っていたの？」とお母さんがいいました。

「森の中をずっと、歩いていたんだよ。おかあさんにびっくりするものをあげようと思ってさがしまわったんだけど、でも見つからなかったんだ」とくりちゃんはかなしそうにいいました。

「でもほんとうに見つけたじゃないの！／」おかあさんりすはいいました。「おかあさんはね、ぼうやがまいごになってしまったと思って、これからさがしに行くところだったのよ。でも、ここにぼうやがちゃんというわ。ぼうやがおかあさんのいちばんすてきなびっくりちゃんなのよ」

子りすのくりちゃんはとてもつかれていたのとび上ってよろこぶほど元気はありませんでしたが、とてもとてもしあわせでした。

きん
金 になっ た

王 女 さ ま

ナサニエル・ホーソン作

昔、ある所にマイダスという名の大変お金持ちの王様が住んでいました。全世界のだれよりもたくさんの金を持っていました。

しかし、それにもかかわらずマイダス王はまだ不十分だと思っていました。自分の財産がふえる時が一番幸福な時でした。マイダス王は、宮殿の地下にある大きな宝の部屋の中に金貨をたくわえていました。そして、毎日長い間お金をかぞえてくらししていました。

さて、マイダス王にはマリーゴールドという名の小さな女の子がいました。王はこの娘を大変愛していました。そして「マリーゴールドは世界中で一番お金持の王女になるだろう」と言っていました。

しかし、小さなマリーゴールドは、お金など少しもほしいとは思っていませんでした。

彼女はお父さんの財産よりも庭や花や金色の太陽の光が大好きでした。



ある日、マイダス王は宝の部屋へおりて行き、重いとびらにかぎをかけてから、大きな金の箱をあけました。彼は金貨をテーブルの上につみ上げて、そうするのがうれしくてたまらないというふうに金貨をいじっていました。金貨を指の間にすべらせて、そのチャリンという音がまるで美しい音楽にでも聞えるのか、うっとりしていました。

突然、金貨の山の上に人のかげがさしました。見上げるとそこに、白くかがやく着物を着た見知らぬ人がマイダス王を見下してほほえんでいました。王様は驚いてとび上りました。「たしかに私はとびらにかぎをしっかりとかけたはずだ！私の宝の部屋は安全ではなかったのだ！」

見知らぬ人はなおもほほえみながら、「マイダス王、あなたはたくさん金貨をお持ちですね」と言いました。

「はい。しかし考えてもごらん下さい。世界中にある全部の金貨にくらべたら、本当にわずかなものですよ！」と王様は答えました。

「なんですって！ それではあなたは満足してはいないのですか？」

「満足してる？ もちろん満足なんかしてはいませんよ。時々、私は長い夜の間を横になったまま、どうやったらもっと金貨を手に入れる事が出来るか、その新しい方法を考えつづける事があります。ああ私の手にふれるものが皆金に変わってしまえば良いのに。」

「あなたは本当にそう願っているのですか？ マイダス王」

「ええ、もちろんですとも。私にとってこれ以上の幸福はありませんよ」

「それならばあなたの願いごとはかなえられますよ。明日の朝、太陽の最初の光があなたの窓にさし込んだ時から、あなたがさわるものは皆金になりますよ。」

す」この最後の言葉をのこして、見知らぬ人はきえてしまいました。

マイダス王は目をこすって、「夢を見ていたにちがいない。でも、これが本当の事であってくれたら私はどんなにか幸福になれる事だろう！」と言いました。

次の日の朝、最初のかすかな光が部屋にさした時にマイダス王は目をさました。

彼は手をのぼしベッドのカバーにさわりました。何も起きませんでした。「そんな事が本当に起るは

ずはなかったのだ」とため息をつきました。が、太陽の最初の光が窓からさし込んだそのしゅんかん、マイダス王の手がおかれてあったカバーが純金になったのです。

「本当だ！本当だ！」と王様はよろこんでさげびました。ベッドからとび起きて手あたりしだいにさわりながら部屋中を走りまわりました。王様の上着もスリッパも家具も皆金になりました。彼は窓から外を眺め、マリーゴールドの庭を見ました。「マリーゴールドはきっとびっくりするだろうな」と言って庭へ出て、マリーゴールドの花をみんな金に変えてしまいました。「マリーゴールドはきっとよろこぶにちがいない」と王様は思いました。

王様は朝食をとるために、部屋にもどりました。彼



は前のばんに読んでいた本を取り上げました。所が手をふれたしゅんかんに、その本はかたい金になりました。「もう読めなくなりました。でももちろん金として持っている方がずっと良い事だ」と王様は言いました。

ちょうどその時、めしつかいが王様の朝食を持って入って来ました。「とてもおいしそうだ。何よりもまず、あのうれた、真赤な桃を食べようか」と言ってその桃を取り上げました。所がそれを食べないうちに、桃は金のかたまりになってしまいました。「とてもきれいだが、金は食べられない！」と王様は言いました。次にお皿からロールパンを取りました。しかしこれも金になりました。王様はお水の入ったコップを手に取りましたがこれも金になってしま

ました。「どうしたらよいのだ？ 私はお腹がすいて、のどがかわいているのに、金を食べたり飲んだり出来ないのだ！」と王様はさげびました。

その時、とびらがあいて小さなマリーゴールドが入って来ました。彼女はひどく泣いていました。そして手には一本のバラを持っていました。

「どうしたというのだ？ かわいい娘よ」と王様はたずねました。

「ああお父様、私のバラがみんなどうなってしまったか見て下さい！ こんなにかたくて、みにくいものになってしまいました！」

「どうして、それは金のバラだよ。前よりももっと美しくなったと思わないのか？」

「いいえ、金のバラはいいにおいがしませんし、もう大きくなりません。私は生きているバラが好きなのです」と彼女はすすり泣いて言いました。

「気にしないで朝食をおあがり」と王様は言いました。

けれども、マリーゴールドは王様が何も食べず、またとても悲しそうなのに気がつきました。

「どうなさったのですか？ お父様」と彼女は王様のところへかけよって言いました。マリーゴールドが王様にだきついたので、王様は彼女にキスしましたが、とつぜん王様はおそろしさとくるしきで大声でさげびました。

王様が娘にふれた時、その小さなかわいらしい顔は光りかがやく金になり、もうその目は見えず、そのくちびるは二度と王様にキスする事が出来ず、小さなうでは王様をしっかりとだく事も出来なくなりました。もはや彼女は愛らしい、ほほえみかける小さな少女ではなくなり、小さな金の像になってしまったのです！

マイダス王は頭をたれ、非常な悲しみに身をふる



わせて泣いていました。

「幸福ですか？ マイダス王」とたずねる声が聞えました。見上げるとあの見知らぬ人が王様のすぐそばに立っていました。

「幸福かですって？ よくそんな事が聞けるものだ！ 私は世界中で一番不幸な人間だ！」と王様が答えました。

「あなたの手がふれるものは皆金になるのですよそれでも不足があるのですか？」とその見知らぬ人が言いました。

マイダス王は目を上げることも答えることもできませんでした。

あなたは食物と一杯の水とそれから金のかたまりのどちらがほしいと思っていたのですかかね？」とその人がたずねました。

マイダス王は答えることができませんでした。

「王様、あなたは、あの小さな金の像と、走る事も笑う事もそしてあなたを愛する事も出来たかわいい少女と、どちらが欲しいのですか？」

「ああ、私のかわいいマリーゴールドを返して下さい！ そしたら私の持っている全部の金をあげま

しょう！ ほんとうに大切なものを私ほうしなってしまうのです！」と王様が言いました。

「マイダス王、あなたは前よりずっとかしくなりましたね。行って宮殿の庭の下を流れている川にもぐり、それからその水を持って来て元にもどきたいと思うものにふりかけなさい。」こう言って見知らぬ人は消えました。

マイダス王はとび上って川に走って行きました。そして川にとび込み、水を水さしにすくい入れて、いそいで宮殿にもどりました。王様がマリーゴールドにそれをふりかけると、彼女のほほは元のようにバラ色になり、青い目はふたたび、ぱっちりともきました。「どうしたのでしょうかお父様！ 何があったのですか？」と彼女はたずねました。

よろこびのさけび声を上げて、マイダス王はマリーゴールドをしっかりと自分のうでの中にだきました。

それからというもの、マイダス王は太陽の金色のかがやきと、かわいいマリーゴールドの金色の髪の毛は、決して金などほしいとは思いませんでした。





母親の役割

フローレンス ビットナー

男の子とお母さんはふだんはとても仲良く、うまくいっているものです。でもお母さんが、下着はきれいか、耳はきれいにしているか、くつ下に穴はあいていないか、またいつも健全な考えを持っているかと心配して騒ぐと、二人は水と油のようになってしまいます。しかし、それでもお母さんはすてきです。特に食事ときにはなおさらのことで、みんなは自分のお母さんほど料理の上手な人は他にいないと自慢しています。それでもお母さんがもう少しお父さんの方に気をとられて、自分たちの食べ残しや、おかわりの回数に気づかなければよいのにと願っているのです。

一般にお母さん方は、日々の生活でそれほど重要とも思われなことを非常に心配します。たとえば学校の宿題やピアノのおけいこをしなさいとか、子供たちの見るテレビは終わったでしょうなどということです。しかしその一方で男の子たちが町はずれでフットボールの試合をやったり、重量あげやバスケットボールをしていることには注意を払っていないのです。

お母さんと男の子はクラブやボーイスカウトの集会のことではとてもうまく話が合うのですが、学校が終ってからのことについてはなかなか一致しないものです。問題を二言三言で片づけるし、たしかにお母さんは男の子の何倍も言葉を知っているので、おしゃべりではとうていいきません。その上しかりつけて「夕ごはんをあげませんよ」とおどかすだけで子供を黙らせることができます。

つまり、お母さん方は、一日じゅう学校で勉強するという子供たちの仕事をよく理解していないのではないのでしょうか。子供というのはみんな学校で一日じゅう遊びまわっていて、家に帰って夕方になる頃やっと勉強をはじめものだと思込んでいるのです。お母さんと口げんかをしないですむような子供になるのはなかなか容易ではありません。

お母さんにはお母さんの持ち場というものがあります。男の子に言わせれば、それは台所でチョコレートで飾ったクッキーを作ることだというでしょう。しかもそのクッキーは自分たちがまだ学校にいる間に焼いておいてもらいたいの

お母さんほど子供の気持ちをよく理解してくれる人は他にいません

す。そうすれば学校から帰った頃にちょうど焼き上り、台所に、はおいしそうなおいもまだ消えずに残っているからです。ところがちょうど男の子が学校からもどる頃になると、お母さんは隣近所の人に呼ばれて出かけていきます。出かける時に、いちいちクッキーの数をかぞえていくようなことはしないでしょうから、少しぐらいつまみぐいをしてもわからないわけです。

お母さんは男の子の洋服や身のまわりをいつもきれいにしてくれていますが、男の子は、ズボンのひざにしみがあっても、くつ下が少し位やぶれていても、ボタンのとれたシャツを着ていても、そんなに大騒ぎをしないお母さん、つまり男の子の身になって考えてくれるお母さんが好きなのです。それにくらべるとどういふわけか、女の子たちは洋服の事でお母さんにこごとをいわれることはめったにありません。くつ下も破れなければ、ボタンも男の子のようにそうたびたびとれるようなことはありません。そこで男の子たちはいつもこのようなきまった言葉を持ち出すのです。「女の子の洋服には何かしかけがあるんじゃないかな」

男の子は、お父さんが自分の味方になって、お母さんに「野球をやっていると、すべり込みをするたびにズボンがすり切れるんだよ」と時々弁解してもらいたいと思っているのです。男の子がわざとすり切れるようにしているのではなく、ズボンの方が勝手にそうなるのですから。もしだれかが、何度すべり込みしても切れたりやぶれたりしないズボンを作ってくれば男の子たちは大助かりでしょう。けれども、お父さんが男の子の思っている通りのことを全部お母さんに言ってくれるとは限りません。

夕食近くなって、男の子のお腹がグーグー鳴り出すとお母さんたちは口をそろえて、間食をしないように注意するので。でも男の子というのは夕食前に少しぐらい間食をしても夕食の準備をしているうちに、またお腹がすいてくるものです。

いろんな面で、お母さんはとても素晴らしいと思います。だれもみていないときにそっと寄り添うと、何か香水のようなどてもいいかおりがして、暖かい気持ちになります。また子供が病気になれば、冷たい飲み物を持って寝ているところにやってきて、掛けふとんなどをきちんと直していってくれ

るのです。

そして病気が治り元気になるとまた、ボタンはきちんとついているか、いつも身の回りをきれいにしているかと騒ぎはじめなのです。

お母さんは、子供たちにとって、なくてはならない存在です。子供が何か問題にぶつかって悩んでいる時、お母さんは大きな力になってくれます。お母さんほど子供の気持ちをよく理解してくれる人は他にいません。たとえ心の中で自分にも責任があるんだと思っけていても、お母さんはいつも子供たちの味方になってくれるので安心です。またその問題をただお母さんと一緒に話し合ってみるだけで、心のもやもやが消える時があるのですが、男の子は素直にその気持ちを外に現わさないのです。そしていつまでもその問題についてぶつぶつ言っているのです。

お母さんは時々学校に出かけていって、あまり他の人にしゃべってもらいたくないような問題でも全部、先生に話して解決策をたててくれることがあります。学校の先生とお母さんがいっしょに話している時は、きまって「子供」のことです。

先生に何かを言われるのがいやだとわめいたり、自分で解決できるからと言ってお母さんが学校へ行くのをやめさせようとしても、結局はお母さんがそんなにも自分のことを心配してくれていることがわかり子供はうれしくなるのです。別に悩みなどがなくても、お母さんと二人で話すのはとても楽しみです。お母さんは、特にお父さんと初めて出合った時のこと、子供たちがまだ小さかった頃のことをとても楽しく話してくれます。お父さんは時々戦争の話をしてくれます。そうすると男の子は身を乗り出して、一晩中その話に耳を傾けるのです。しかしそんな時、お母さんはきまって時計を見て「まあ、もうこんな時間だわ」と言って話をやめさせてしまいます。家に帰ってきて、ドアをあけて「お母さんどこ？」と呼んでみて、「おかえりなさい。ここよ」というお母さんの返事を聞くと、男の子は安心して自分の仕事にとりかかれるのです。そんなお母さんの声は何か特別な声のようです。

男の子とお母さん、この二人は本当はとても仲良しなんです。その証拠にどちらか一方がそばにいてくれると、とても安心するのです。お母さん、それはなくてはならない空気のような素晴らしい存在なのです。



神の園から送られてきた 最も美しい花

大管長会

ジョセフ・フィールディング・スミス

この世の続く限り、いかなる進歩、発展も変えることのできない真理がいくつかありますが、その一つは、父、母、子供達からなる家族が教会のすべての土台となっていることでもあります。言葉を変えて言うならば健全な家庭を破壊するような行為は、結局その国全体を破滅に追いやるということでもあります。そのためにも我々は自分の周囲の人々、特に家族など最も身近な人々のために良き働きを為すよう努めなければなりません。また、この良き働きは我々が教会内での責任を立派に果たすための最上の準備ともなります。

あなたがた一人一人は神より力と光を授かっている母親として家庭を少しでも理想的なものとしていくことができるはずで、理想的な家庭にあっては、親子関係は、お互いの利益をはかり相手のことを良く考え、思いやりを持つという精神に基づいた完全なものとなるに違いありません。

重要なのは、その人がどんな仕事についているか、どんな経済状態にあるかではなく、いかに家庭生活がうまく営まれているかということでもあります。誠実な家庭があり、その中で家族の一人一人が責任をよく自覚してそれを果たすならば他のことはそれほど問題ではありません。愛する姉妹の皆さん私は家庭というものがいかに大切であるか、これを認めない人はいないと確信しております。

米国の26代大統領セオドア・ルーズベルトは子供のない家庭を樹木の生えない「不毛の地」にたとえております。しつけの非常に厳しい家に育った子供でも悪の道にそれることがあり、いかに恵まれない環境にあっても立派にやっている子供がおります。しかしそれらの結果の大部分は家庭におけるしつけにかかっていると云えるでありましょう。家庭でのしつけなくしては完全な親子関係はとうてい望めないのです。

我々にとって子供はどんな存在か

私が今ここで「我々にとって子供はどんな存在か」と問うならば、昔の作家が言った次の様な答えが返ってくるであろうと確信しております。「我々の子供たち—それは、神の園

から送られてきた最も美しい花である」と。子を持つという父親、母親に与えられた最大の特権に対する天父の御心は、アブラハムに与えられた祝福の言葉の中にかがう事ができます。天父はアブラハムを祝福し、この世の富、名誉をすべて与えると約束なさいました。しかし何にもまさる祝福は、アブラハムの子孫を大いにふやし、天の星の如く、浜べの砂のごとくにするであろうという約束でありました。

我々は、靈感あふれる福音の中に人生の目的を見出し、その教えに従って生活する時、はじめて福音の素晴らしさ、その価値に気づくのであります。福音は、我々に次の二つの間の真の意味を説いています。「人が全世界をもうけても、自分の命を損じたら、なんの得になるのか。」(マルコ8:36) 同様に「我々が全世界をもうけても、我々の子供の命を損じたら、何の得になるでしょうか」

母親である姉妹の皆さん方は、母親という特権に、あるいは祝福である子供たちに対し非常に大きな責任を感じておられることでしょう。我々に課せられている責任は決してたやすいものではありません。しかしそれを精一杯なしとげたとき、この上ない素晴らしい報いが得られる事を覚えて下さい。

我々の後に続く世代の人々の運命は、家庭を守る母親の手に委ねられていると言っても過言ではありません。自分の息子・娘に立派なしつけをすることのできる母親は本当に幸せな人と言えるでありましょう。なぜならば良いしつけは親子間の関係がうまくいってなければ決してなされないからです。

世の中はどうであろう

この世が創られて以来、自分たちの住んでいる時代が、かつてない最悪の状態であると主張する人々と、最良の状態であると主張する人々がおります。いくつかの条件つきで、私は今の時代の人々は後者に属していると申しあげます。確かに我々は多くの恵みの中で生活してはおりますが、しかしあらゆる危険が目の前に横たわっているのを見すごしてはなりません。そこで親の心配は大部分子供たちのことで占められてくるのであります。これらの危険から、子供たちを遠ざけ、十分に保護することのできる唯一の場は家庭であります。しかしながら、これまで若い人々、特に女性の中に驚く程大胆な、反道徳的行為を公然としてきた人々がいるという事実を否定することはできません。家庭でのしつけ—これは女性をそのような行為に追いやることを妨げ、そこから遠ざけるためにも決して欠かすことのできないものであります。しかし残念ながら、今日の女性の多くは昔の女性ほど家庭で厳しいしつけを受けていないように思われます。女性は、教えと良い模範により、家事に精通し、正しい道徳基準を養う必要があります。現代の女性の多くはまったくと言ってよいほど道徳観念を持っておりません。

現代は保守主義と奇異な主張や行いが対立している時代であります。両親と子供の間には理解も同情も見られないことが多くあります。母親があまりにも与えなさすぎるのに対し子

供たちはあまりにも多く要求しすぎるのです。このような状態では冷静になって理解し合うどころか、むしろお互いに相手を攻撃し合う結果となるであります。皆さん方は親として手のつけられないようないわゆるジャズエージにある子供たちを忍耐強く理解してやろうとしなければ、彼らは勝手な行動をとり、自分たちが理解してもらえない場へと逃避するに違いありません。そこに悲劇が起きるのです。お互いに理解し合い、親しみを増したときはじめて、親子共に身も心も一つになるのであります。

今の若者は、感謝のしかたを知らないという悲しむべき声をたびたび耳にしますが、確かにそう言えるかもしれません。感謝することを知らない、いわば恩知らずの若者がふえてきたと言われる原因は、物質的な恵みや人々から受ける親切、あるいは世の価値あるものに対していつも感謝するという習慣を欠くような教育のしかたにあります。そのような教育が行われているとすれば、これは当然親の責任であります。

神の律法を重んぜよ

現代の若者は畏敬の念に乏しく、政治上、宗教上の権威を無視する傾向があります。しかし、それを若者だけのせいにしていいものでしょうか。それはちょうど敬虔の念に欠けた年頃ではないのでしょうか。このような場合もまた我々は家庭にその助けの場を求めらるべきであります。それゆえ家庭は神の律法を重んじ、それに従う所として常に聖く保たなければなりません。

私は家庭を、最も素晴らしい、この世のあらゆる善いことが生み出される場所であると強調してまいりました。家庭はまた、人格が形成され、礼儀・態度が親子関係によって左右される工場のようなものでもあります。親子の関係がうまくいかなければ、あるべき姿の家庭は到底望めません。親子関係がうまくいかないかは親と子供両方の責任ですが、実際にはその責任は親の方に多くかかってくるのであります。子供のしつけは、子供がものごころつく前に厳しく行なうよう心がけて下さい。また常に正しいことをなすように習慣づけて下さい。主は「人はパンのみにて生きるにあらず」と言われました。子供たちもまた欲しい物を手に入れて、それだけで満足しているようであってはなりません。善をなすように子供をしつけること、これは非常に大切なことであります。しかしそれは母親の仕事としてそれほど困難であるとは思えません。子供にこうして欲しい、ああして欲しいと望む前に、まず親自身が良い模範を示して下さい。そのためにも親が常に準備していなければ、子供たちに良い模範を示すことは不可能であります。奉仕する喜びを子供たちにわからせる唯一の方法はいかに奉仕するかを教えることであり、受けた奉仕に報いるよう教えることであります。

三歳になる女の子が何か手伝いをしようとして、母親のところへやってきました。母親は子供を見るなり「さあさあ、じゃまになるから向うへ行行って頂だい」と少しいらいらしながら言いました。私はこの話からニューヨークで開かれたステーキ部大会にスミス姉妹と共に出席した折に一人の男の子が母親に向かって言った言葉を思い出します。その大会でスミス姉妹が次のような話をしました。子供たちは両親に向かって常に「大好きよ」という言葉を忘れないように、また両親は子供からそう言われてもはねのけるような態度をとらない

ようにと。すると、その男の子は母親のところに行き、こう言ったのです。「お母さん、ぼく、お母さんが大好きなんだ。だけど今あの立派な女の人が言ったように『大好き』と言ってもぼくをはねのけたりしないでね」と。これはいったいどれに責任があるのでしょうか。手伝いをしたいという気持ちは正常な子供ならずして生まれつき備えている一種の本能のようなものであります。親にさえこの気持ちをそこなう権利はないはずで。仕事の手伝いで家事ほど骨の折れる仕事はありません。しかし、その仕事を協力し、助け合いながらなすとき、そこに最も素晴らしい洗練された親子関係が生まれるのであります。

思いやりを持って理解せよ

我々親に最も欠けていると思われるものを一つ言わせて頂くなら、それは思いやりの気持ちをもって子供たちを理解しようとする心構えであります。常に子供と共に歩み、その視線を子供からはずさないで下さい。そして子供と共に、「流れゆく水に書物を見出し、石に教えを感じ、あらゆるものに善を見る」よう努めて下さい。また「若さ」という花は義の陽ざしにまっすぐ顔を向けて咲き誇っている時最も美しいということを教えて下さい。また子供たちの興味を引くものに精通して下さい。そして、あのワーズワースの美しい言葉「力を落している人々に希望と新たな気持ちを起こさせてくれるのは他でもない子供たちである」ことを常に頭に置いて子供たちと共に進歩して下さい。

過去をふり返って見れば、そこには栄光に満ちた時代が、また眼前には希望に満ちあふれた未来が広がっております。我々は過去に生きた立派な人々の期待を裏切るようであってはなりません。我々の先祖は、やるべきことを立派になし遂げ、この上ない素晴らしい財産を我々に残していかけてくれました。親しく交わりながら、この素晴らしい財産に感謝する気持ちを子供たちの心に植えつけること、これが我々の最大の目的なのであります。そうすれば我々の子孫は、この大切な財産を失わずにいつまでも持ち続けていくことであります。この目的が扶助協会の姉妹たちに十分に教えられるなら、家庭の中での親子関係は必ずうまくいくに違いありません。また主が非常に大切であると感じておられる事柄を子供たちに教えることは何と素晴らしいことではありませんか。子供たちに教義を教えて理解させなければその罪は両親の頭に留るであろうと主は言っておられます。またマッケイ大管長は次のように述べておられます。

「まず第一に我々一人一人の心の中から、憎悪、利己主義、貧欲、敵意、羨望の念をとり除かなければ家庭、隣人、団体に調和、世界に平和をもたらすことは不可能である」

各ステーキ部、ワード部で熱心に働いておられる姉妹の皆さん方の上に主の恵みが豊かにありますように、また主の「みたま」が共にあり主の御業をなす時に導き、み守り、助けが与えられますようにお祈りしております。またマッケイ大管長が心から皆さん方を祝福しておられることをお伝えいたします。これらの話と祈りのすべてを救い主イエス・キリストの御名によっていたします。アーメン

*シェークスピア「お気に召すまま」第2幕第11場



勇気ある強靱な腕

ジェイ M. トッド

パームデイルワード部（カリフォルニア州）のジョージ・エドワード・バスビイ監督にまつわる話は、人間が果たし得た驚くべきまた感動的な物語である。彼は1968年度の全教会 YMMIA スポーツ委員会の推挙によりホーマー・ワーナー賞を受けた。ジョージ・バスビイの生い立ちを知っている者で、この受賞に反対する者はほとんどいない。

スポーツの技術的な面を考えてみても、彼と同じぐらい果してきたと言い切れる人はいくらもないであろう。彼は、全教会ソフトボール大会で実に9回も4位以上の成績を収めたチームの選手として常に参加している。そのチームは4位3回、3位3回、2位1回、1位2回といった成績を残し全教会スポーツマンシップ・トロフィーを3回も獲得してい

る。さらにバスビイ監督は、全教会オールスター・ソフトボールチームで4回も表彰され、また一度最優秀選手に選ばれ全教会オールスター・バスケットボールチームの選手にも一度選ばれている。幼児の時にわずらった小児麻痺がもとで左半身の腕、脚、肩が全く不具といった状態で彼はこれらのすべてを、なし遂げたのである。

バスビイ家を訪れると、ソフトボール選手権やオールスター戦で得た67のトロフィーやロデオ・野球・フットボール・バスケットボールその他数々のスポーツで得た何十というトロフィーやリボンが目につく。彼こそほんとうのチャンピオンなのである。

しかし、これらの栄誉をもたらした彼の不屈

の勇氣と闘志を知っている人はほとんどいない。決してなまやさしいことではなかった。アリゾナ州セントダビデで生まれたバスビイを知る人で、今日の彼を予想した人がいるだろうか。

1926年10月10日、セント・ダビデで生後約10ヶ月のバスビイは小児麻痺にかかった。彼の左半身は完全に麻痺してしまい医者ほどなくこの麻痺が心臓をもおそうのではないだろうかと心配した。数時間しか命はもつまいと診断された。神権の権能により、父と祖父が祝福を施した。その結果奇蹟的に回復に向い、小児麻痺は左側の腕と肩と脚とを冒しただけであった。3才頃にはバスビイの脚は歩けるほど丈夫になっていた。

年を追って脚は段々正常な形態に発達してきた。けれども腕と肩は使えなかった。それで、ジョージは何でも片腕でやれるように練習した。両親はジョージに決して、「ぼくはそんな事できない」と言わせないようにして、辛抱強く訓練を続けた。

しかし、この幼いジョージの試練はまだ始まったばかりであった。6才の時、転倒し、不自由な左腕を、ひじの上から折った。それから6年間、実に7回骨折し、3回も手術を受けたのである。この6年間と言うものほとんどギブスがはめられっぱなしになっていた。この間に、彼は車にはねられた。胴体上部に重傷を負って、医者がさじを投げたほどであった。再び、父と祖父は彼のために灌油の儀式を施した。ひどく傷ついた体は神権の力によって祝福された。日に日に、手術と治療の効果が現われて、腕と肩にも筋肉がついてきているように思われた。

どの子供たちでもそうであるように、ジョージも他の子供たちと一緒に遊びたがった。しかしいつも仲間はずれでつまらない思いをした。それでジョージは、今に仲間が自分を真先に選んでくれるようになろうと、決心したのである。夜になるとジョージは塀の柱にある節に目掛けてボールを投げつけ、妹がそれを拾って投げ返すといった練習を始めるようになった。妹が疲れてくると、今度はバスケットボールを持って学校へ出かけ、何時間も練習をするのであった。このようにして少年時代に彼は驚くほど足が速くなり、体のバランスをとることを体得したので、転倒する時には体をねじって麻痺していない右側で倒れるようになり、もはや左腕を痛めることはなくなった。

この年若いジョージの勇氣がその効果を現わし始めた。10才の時、競技会で、つなぎ輪でとめてあるボールを31分間も打ち続けて自転車を獲得した。12才の時に、セント・ダビデのマーブル競技のチャンピオンになった。彼の指は非常に強靱にきたえられていたのであった。

13才の時には、少年ソフトボールリーグでピッチャーをするのだが、腕が強く、投げるボールがあまりに早いので大人のリーグで投げていた。何時間も練習の結果、彼は何とか左手でソフトボール用のグローブを使えるようになった。ジ

ョージは、ソフトボールだけでなく他のスポーツにも興味をもっていた。左脚を強くするために、毎夕ランニングを始めた。高校生の時には、アリゾナ州の全国高校競技大会で800メートルレースに優勝するまでになっていた。17才の時に彼の属するワード部のバスケットボールチームが地区大会で優勝し、全教会トーナメントに出場して、6位の成績をあげた。18才の時ジョージは2試合で64もポイントをあげ全教会バスケットボールチームの選手に選ばれた。同年、彼は全南アリゾナソフトボールトーナメントの最優秀選手に選ばれ、チームは優勝した。

このようにして彼の輝かしい経歴が始まったのである。彼はどの試合でも、またどのシーズンでも、オールスター戦でもいつも「真先に選ばれる人」になっていた。彼の受けた賞は実に数多く、枚挙にいとまがないほどであるが、彼の輝かしい優勝歴の10年目毎の概略を知っておくのも興味のあることである。1644年、全教会バスケットボールチーム。1954年全教会ソフトボールチーム。1964年、全教会ソフトボールチーム。この間、あるいはこの後にプロの選手でさえもうらやむと思われるほどの優勝や個人的な表彰を得た。

とりわけ、1953年、1956年、それに1966年はジョージ・バスビイには特に意味深い年であった。というのはこの3年に彼のチームは全教会スポーツマンシップ賞を与えられているからである。同一チームがこの賞を3回も受けるのは教会始まって以来のことであった。その上、彼のチームは1953年には優勝もしている。同一チームが優勝し、しかもスポーツマンシップ賞をも得るということは全ソフトボール大会では初めてのことであった。

スポーツマンシップとそれに伴う事柄、つまり、公平、正直、寛大、他人を思いやること、健全なこと、それに快活な精神がバスビイ監督のトレードマークになっている。この人格を形成する豊かな徳は教会の責任と、教会に対する絶えざる献身的な注意によって得られたのである。これはちょうど彼のスポーツの能力が不断の精励のたまものであるのと同じことである。彼の教会での仕事歴は非常に豊かである。進歩する機会に充分に恵まれていた。アロン神権指導教師、青少年教師、スカウトマスター、ワード部のスポーツ指導者とコーチ、メルケゼデク神権定員会の会長、ステーキ部宣教師系図委員副監督、ステーキ部M-I-A副会長、M-I-A会長、高等評議員、ワード部財政委員会会長、そして現在は監督といった具合である。

ジョージ・エドワード・バスビイの高潔な表情には肉体系と信仰面の理想的なあり方がうかがえる。彼こそホーム・ワーナー賞を受賞するにふさわしい人である。この賞は教会のバスケットボールプログラムの創設者を記念して設けられたものであり、このプログラムは世界最大のものである。ホーム・ワーナー賞は特にすぐれたスポーツ上の業績をあげまた、スポーツマンシップと霊性とを身をもって現し真に模範としてふさわしい人に与えられるのである。



Y W M I A — 愛に結ばれた その百年

Y W M I A 中央管理会長
フローレンス S. ジャコブセン

1869年11月のある暗く寒い晩7時になって、父親はいつものように家族の祈りを知らせる8つの鐘を鳴らしました。それを聞いた娘たちは何をしていてもそれをやめて客間へ急ぎました。客間では父親がいつもと同じように赤いビロードの椅子に腰かけて

家族が集まるのを待っていました。父親は、いきいきとしておしゃべりに興じる美しい娘たちや、それぞれに活気にあふれた息子たちを見渡しました。みんなはひざまずき、神の予言者であるその父親は、感謝を述べ、祝福を語り導きを願って、謙遜な祈りを捧げました。いっしょにアーメンを言って立ちあがったみんなは、さっそく華やかなスカートやペテコート、ズボンやチョッキなどを念入りになでつけて整え、愛する父親にあいさつしました。

その晩はいつもと違って、父親のブリガム・ヤングは突然息子や小さい娘を除いて女性はみんな客間に残りなさいとおごそかに言いわたしました。

父親は話を始めました。「さあ、みんな腰かけなさい。あなたたちに言いたいことがある。イスラエルの人々は、私の家族に注目し、模範を見ようとしている。そのために私はまず最初に私の家族をととのえて、秩序と儉約と勤勉を習慣づけ、愛を高めるための会を作りたい。とくに衣服や食べ物にぜいたくをせず、また無駄な話をしないようにしなさい。今は、姉妹たちが服装に心を奪われることなく質素な衣服を用い、謙遜な態度で、世の人々に手本とされるような価値ある模範を示さなくてはならぬ時である。我々の娘たちは無益でおろかな世の流行を追っている。私はあなたがたに自分の型を確立してほしいと願う。シオンの娘たちが、教会の古い会員である父や母を助けて私の教えてきた原則を広め、教え、実践できるように、私は長い間一つの組織を作ることを考えてきた。イスラエルの娘たちは真理に対して生きた証を得なくてはならない。私は娘たちが自分で福音の知識を得るようにと願っている。そのためにこの組織を作りたいと思い、また私の家族がその中で人々に率先して働くものとなってほしいと願う。やがて私たちはぜいたくをつつしむ会をつくる。あなたがたは、みなその組織に参加してほしい。……あらゆる無駄なよくないことから離れて、美しく善いことを育てなさい」

こうして、現在末日聖徒イエス・キリスト教会 YWMI A として知られる組織が百年前の1869年11月28日にはじまったのです。それは奉仕の百年、愛に結ばれた百年でした。一家族の姉妹たちによっちはじまった組織は、教会の女性すべてに広がり、姉妹の愛にあふれたユニークで大きな組織になりました。

それから六年後ブリガム・ヤング大管長は教会の男性のために同様な組織を作りました。それ以来数百数千という若い男性、女性が、健全な活動を楽しみ、精神を進歩発達させ、技術を伸ばし、才能を見出し、友情を深め、証をあらたにし、教会の指導者自分の仕事を率先して導いていく力強い指導者となることを学んできました。

この百年で、それぞれの時代の人々にとって MIA が必要でしかも多方面にわたって有益なことがあきらかにされました。次の百年のはじめにあたって世の社会的、道徳的、文化面、霊的な低落に直面する若人にとって、MIA は従来にもましていっそう必要なことがわかります。

女子MIAの新しい世紀を迎えて

1969年6月の大会の時に YWMI A 百年祭が開始されます。

その時には、百年祭舞踏会、ダンスフェスティバル、その他の大切な行事を筆頭に多くの活動が行なわれます。世界中のステーキ部、伝道部では、1969年11月28日に舞踏会を開催して、百年祭を記念します。

百年祭を長く記念したいと思われる人は、6月大会の後で記念品を購入できます。美しい記念皿、百年祭のパンフレット、かわいらしい金や銀のプレスレット、ネックレス・ペンダント、リネンのピクチャータオルなどです。

伝道部長メッセージ



エルシー・ビルス姉妹

私 はきょう、二人の素晴らしいお母さんに心から賛辞を贈りたいと思います。この二人の婦人は生れた所も、育ち方もまったく異なっていました。しかしながら生活の中で最も大切な点に関しては共通するものがありました。それは自分の子供達の心に神を愛し、敬う信仰を育て、とりわけ隣人と神に仕える喜びを教えたことでした。

私の母、ガスターバ・トージャソン姉妹はノルウェーに生まれました。そしてまだ若いうちから家族の生活を支えるために一生懸命、働かねばなりません。彼女の父は妻と娘二人、息子一人を残してこの世を去ったのです。ところが家族のただ一人の養い手となった息子もその後を追って亡くなると、二人の娘は母親を助けるためにどうしても働きにゆかねばならなくなりました。そこでまず最初にガスターバがアメリカへ移住し、働きながら妹がアメリカへ渡るに必要なお金を貯えました。妹がアメリカにくると二人は次に母親をよび寄せるため、一生懸命に働きました。ある時は病院で、またある時は人の家で……とお金を得るためにできることを何でもやりました。1900年代に入ってやっと彼女達の働きに対し、お金が払われました。その額はわずかでしたが彼女達の心は幸せに満ちていました。また主の召しに喜こんで従い、働きました。ガスターバはトージャソン兄弟とソルト・レーク神殿で結ばれましたが、彼らの歩んだ道は試練と困難の連

続でした。しかしそれらの苦難にもかかわらず福音に対する愛と天父の御心にそった生活をしたという望みを決して失うことはありませんでした。

フリーダ・ビルス姉妹（ビルス伝道部長の母）はソルト・レーク市に生まれました。10人兄弟の中の1人で彼女の父はドイツから、また母はスウェーデンからアメリカの地へやってきました。大家族でありながらも、そこにはいつも愛がありイエス・キリストの福音が教えられていました。フリーダはビルス兄弟とソルト・レーク神殿で結ばれましたが、彼らの歩んだ道もまた苦難の連続でした。しかしいかなる苦にもめげず、彼らは喜こんで主に従い、神の戒めを守ったのです。

フリーダ・ビルス姉妹は扶助会会長、M. I. A会長、その他あらゆる組織の教師として幾度となく召されました。

ここに、この二人の婦人に共通したものをみることができます。彼女達は共に主を愛し喜こんで御業を助けました。そして子供達が集会に出席しているのを見、主と共に歩むべき道を子供のために備えたのです。

私はこの二人の婦人の生きた道に心から感謝しています。主は、トージャソン姉妹が非常に大きな召しを受けるにふさわしいことを良くご存知でした。私はこの立派な姉妹達が果たされた責任をやるだけの勇氣と力を得るためには心からの祈りが必要であると感じます。そして彼女達を良き手本として生活したいと思っています。彼女達もたらしてくれた愛を家庭の中で育ててゆくとき、「良い忠実な僕よ、よくやった」と言う主の声を聞くことでしょう。

主がすべてのお母さん方を祝福され、選ばれた霊の子達を導く勇氣と力を与えて下さるようにお祈り致します。また常に子供達の模範となり靈感あふれる家庭でありますように。



由でほとんど聞えなかったが、祝福師は「あなたは自分と同じような人々に伝道するにちがいない」と告げた。まもなく彼は耳の聞こえない人々への教会最初の宣教師として召され多大の成果をあげた。その結果数人の耳の不自由な宣教師が伝道に召されるようになった。

三男アラン兄弟は一行がまだ有名になる前「あなたは自分の才能を通して、全世界に大きな伝道をする」



親をその父親をも教会に導くことになったのである。四男ウ

と祝福された。のちにテレビ出演が決まり、彼らは各地へ演奏にでかけることになった。祝福されたごとく各地で多くの人を教会に導き、昨年は二人に自らの手でバプテスマを施した。その中の一人が有名なブロード・ウェイ・ダンス教師のジャック・リーガスの娘であった。その結果、彼女は先ず自分の妹を次いで母親をその父親をも教会に導くことになったのである。四男ウ



デビュー当時右上長男パール中央次男トム

ェインは「あなたとあなたの兄弟たちは外国公演を通して世界の伝道活動の門戸を開く」と祝福された。彼はスウェーデンで大いに伝道活動を助けた。以来たびたび訪問することにもなった。

メリル兄弟、ジェイ兄弟は教師の職にある。幼いダニー兄弟、マリー姉妹、ジミー兄弟もお兄さんに負けない伝道を行っている。

信仰深い家族は、主の導きを受けて、各地で伝道し主の栄光をあらわしてゆく。家族そろって神を礼拝し、知恵の言葉を守って旅する礼儀正しいファミリー・コーラス隊は、各地に福音のたねをまいてゆくのである。

1969年 ユース・コンファレンス 日本伝道部

日本伝道部ユース・コンファレンスは来る8月14日(木)より17日(日)まで4日間、東京で開かれます。

一年間でさらに進歩し、成長した若者達の力と意気をこの第2回目の大会で結集させましょう。

今大会の統一テーマは「友情」です。

教会のプログラムの根底にあるものは聖徒達が一団となって前進していく姿です。MIAではとくにその姿が発揮されます。

個人と個人が、支部と支部が、さらに深い団結と友情を感じ合えるプログラム、それがユース・コンファレンスです。第二回ユース・コンファレンスのプログラムは右の通りです

日本伝道部を次のようなブロックに分けました。

- (1)札幌、室蘭 (2)旭川、小樽 (3)青森、八戸、山形、仙台
(4)新潟、福島、郡山、盛岡 (5)甲府、松本 (6)群馬、前橋
(7)東 (8)西 (9)南 (10)北 (11)中央 (12)横浜、静岡、浜松

費用は参加費+食費(4回)交通費(これは1/2位位はお返しします)+雑費(1,500円)で十分です。

今回の宿泊は全て民泊にしました。

参加費は1人1,500円です。

これは兄弟姉妹の交通費と大会の運営費となります。参加

資格は14歳より34歳までを原則とします。プログラムに参加できる人はこの資格が必要ですが、その他は全て自由です。

その他詳細は各地方部MIAを通してお知らせします。

		プログラム	時間	会場	担当者
第一日目	14 (木)	開会式	1:00 ~ 1:50	東京体育館	神崎武二郎
		三地方部選抜 バレーボール試合	2:00 ~ 4:00	〃	〃
		全員参加ゲーム	4:00 ~ 5:00	〃	〃
第二日目	15 (金)	歓迎 ガーデンパーティ	6:30 ~ 8:30	東京西支部	野間 竜一
		コーラス コンテスト	10:00 ~ 12:00	日本青年館	稲垣 聖子
		ランチピクニック	12:30 ~ 1:30	神宮外苑	野間 恵子
		スピーチ コンテスト	2:00 ~ 4:00	日本青年館	〃
第三日目	16 (土)	ドラマ祭	5:30 ~ 8:30	〃	神田 治
		バレーボール 優勝戦	9:00 ~ 11:30	東京体育館	神崎武二郎
		プールへ行こう	12:00 ~ 2:00		〃
第四日目	17 (日)	ボーリングを しよう	12:00 ~ 2:00		神田 治
		ダンスパーティ	6:30 ~ 9:00	麻布プリンスホテル	石井美枝子
第五日目	17 (日)	証 会	9:00 ~ 3:00	東京西支部	神田 治

日本沖縄伝道部

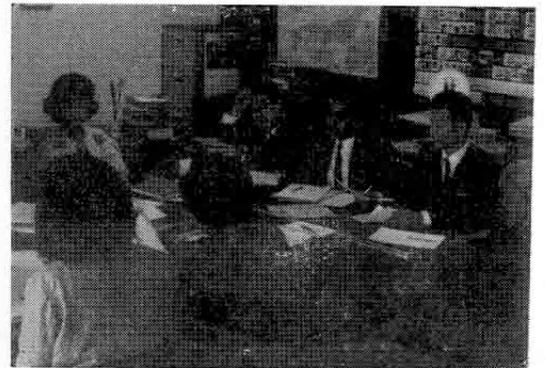
誕生一周年大会

のお知らせ



「伝道部が二つにわかれる」との噂が伝わって以来、私たちはなにかしら神さまが日本の地にいままで以上に強い関心をお寄せになられているのではないかとの感じを受けてきました。現実には1968年9月に、日本沖縄伝道部は開設され、こんにちまで、新しい動きとともに、従来えられなかった祝福を多くうけてきました。そこで伝道部長会は感謝の気持ちをもって秋に誕生一周年記念大会を開くことに決定しましたのでお知らせいたします。

- ★目的：一年間の回顧と反省（神さまの期待にいかに応えたか）；新年度への備え、決意を固める；久しぶりに一堂に会し、旧交を温める
- ★日時場所：沖縄地方部は9月13～14日、その他の、地方部は合同で9月6日（阿倍野）7日（豊中市民会館）で開きます。
- ★プログラム：土曜日は従来の大会形式をがらりとかえて、通常の集会はいっさい開かず、食べる、遊ぶ、記録をみて一年の歩みをふりかえる；旧交を温めること（フェロショッピング）に徹します。教室は展示場に、ホールは食堂に、中庭は提灯をぶらさげた屋台店が立ち並ぶことでしょう。日曜日は神権会、扶助協会、一般大会、証詞会が開かれます。
- ★その他：①全員が参加できるように、いまから時間的、経済的準備をすすめてください。②地方部役員は土曜日の朝から出席できるように準備してください。伝道部の役員はあなたがたのために、一年の計を立てるべく、ワークショップを準備しています。③この大会で、もっともよく伝道した宣教師、リフエロープログラムによく協力した会員、マスタメン・グリーン受賞者などの表彰も行ないます。



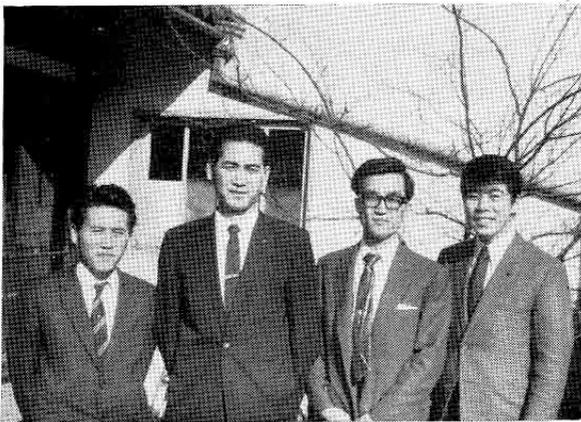
ワークショップの準備をすすめる伝道部役員

地方部および支部の紹介

今月より写真を中心として連載していきます。“これぞ我が支部”という写真をお送り下さい。



名古屋支部の会員たち



中部地方部長会

土田、古芝、板倉、工藤の各兄弟



岐阜支部

名古屋支部の付属支部として誕生しました。支部長はおなじみの柳田兄弟です。

よろしく



* * * * *



“いいねー”

この種の写真はいつみてもいいものであると同時に興味深いものです。日本では結婚は年間を通してみてもまだまだたいした数にはなりません。そこで、今年結婚された兄弟姉妹の紹介をこのように写真で続けてゆきたいと考えています。結婚された方々に、写真をご提供くださるようお願いしてありますが、なかなか思うように入手できません。今月はとりあえずいままでに入手したもののみを掲載いたします。(写真は麻見、中野御夫妻)



お母さん「ほんとうにありがとう」

聖徒の道

リチャード L. エバンズ

心をいやし、安らぎを与え、導き、確信を与えるなど、ひろくゆきとどく母親の愛ほどすばらしいものはこの世にない。そしてこの世で母親の仕事ほどやりがいのあるものはない。その仕事が偉大なる故に神はそれを母親以外の人にお任せにならなかった。訓育し、養育し、助言し、励まし、人格の方向を定め、必要な時には懲罰を加え、あるいは人生の教訓を学ぶようにと愛によって抑制するなど、これほどに意義ある母親の仕事は他の人が何人いても決してなし得ないであろう。「子供は生まれたその日から物がなくとも生きられるようにしつけなければならない」とソクラテスは言った。「いいえ、と拒否することは、子供への愛の一つの表現である」¹⁾ とはよく聞く言葉である。この愛情ある懲罰と賢明なる抑制をもって愛することこそまさに母親の務めの真髄である。

「幼児期は鏡のようなもので、最初の映像を一生保ち反映する。最初のもが子供にあつては永久に続く。……子供はほとんど体で感じるままに単純な模倣によって学ぶ」²⁾ 大切なのは幼児期である。興味をよびさまして教え込むのも幼児期である。心を育て行儀を教えるのも幼児期である。母親の影響が子供に強く反映されるのも幼児期である。「母親は共通の義務たる家事をなす心のやさしさを身につけるようにしましょう。外に出て働くために家庭の尊い暖かさを失わないようにしましょう。私達な明るく愛情深く家庭を思う母親であることをやめて、家庭や家事をないがしろにしてよいでしょうか。私達は母親として家庭の者を励まし、力づけ、数々の祝福を与えるように生活しましょう」³⁾ とアン・R・リンゼイは訴えている。母親の仕事はこのように祝福されたものである。子供が、あれはいけない、これはよいと母親に数えられて生きて来たことをあとになって思い出し、「私は母親の愛によって向上したように思う」⁴⁾ と言えるように、説得とやさしさと偽らざる愛が母親の仕事の基とならなくてはならない。そしてさらに「おかあさん、ほんとうにありがとう。感謝の言葉もありません」という言葉を聞く母親となられるように。

1. 著者不明 アート・リンクレターの言葉とされている。
2. フィリップス・ブルックス
3. アン・R・リンゼイ 「価値あるものは何か」
4. セオ・チェルデン サンシャイン・マガジン 1967年9月号

聖徒の道

1969年5月20日発行

振替口座 東京76226番

発行人兼編集人 ウォルターR. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話(442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100円

予約 一年間1,000円(外国4ドル50セント)

電報受信略号「トウキョウ」マツジツ

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六九年五月二十日発行(毎月一回二十日発行)第十三巻第五号